

令和4年度

教育委員会の点検・評価表



大館市教育委員会

教育総務課

点検・評価の主旨について

1 点検・評価の主旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づき、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければなりません。

本市教育委員会では、この法律の主旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民に対して明確でわかりやすい説明を行うため、本報告書を作成し議会に提出するとともに公表するものです。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に規定する教育委員会で職務権限とされている事務のほか、令和4年度の事務や取り組みとし、学校教育や生涯学習に関することなど、本市教育委員会が所管するすべての事務を対象の範囲としています。点検・評価に当たっては、大館市の「教育大綱」に掲げる「基本理念・基本目標」に沿って、重点施策としている事務・取り組みを選定して実施します。

3 学識経験者の知見の活用

点検・評価の客觀性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ること（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項）が求められていることから、学識経験者2名以上を選任し、点検・評価について個別に意見を聴取します。

4 報告書の作成

報告書の作成手順は、次のとおりです。

各課・館において、令和5年度の所管事務の点検・評価項目及び目標（重点施策点検・評価表の目標、活動内容）を作成します。（3月）

4月上旬までに、令和4年度の実施状況と見込みを取りまとめ、報告書（点検・評価）素案を作成します。

学識経験者から、報告書素案について意見を聴取し、報告書案を作成します。また、点検・評価の目標設定案について、意見を聴取します。（5月）

教育委員会（5月定例会）で、報告書について決議します。また、点検・評価の項目内容を報告し了承を得ます。（5月）

報告書を6月議会に提出するとともに、ホームページ等で公表します。

目 次

基本理念 ふるさとに学び未来を創造できる「人財」の育成		
I 点検・評価の主旨について		頁
1 点検・評価の主旨	1	
2 点検・評価の対象	1	
3 学識経験者の知見の活用	1	
4 報告書の作成	1	
II 点検・評価の結果について		
基本目標		
評価項目・内容	担当課	頁
1 信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策		
1 安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る	教育 総務課	3～5
2 豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実に努める		6～8
3 大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		9～10
2 ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策		
1 ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める	学校教育課 教育研究所	11～12
2 地域学校協働活動を推進し、スクール・コミュニティーの形成を図る		13～14
3 共感的・協働的な学び合いへの充実を図り、おおだて型授業(響学)を推進する		15～16
4 新学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する		17～18
3 ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策		
1 ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	生涯学習課 中央公民館 地区公民館 勤労青少年ホーム 女性センター	19～22
2 「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する		23～32
3 高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する		33
4 「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する		34～41
5 「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める		42
6 伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する		43～45
4 郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する		
重点施策		
1 大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する	歴史文化課	46～47
2 郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する		48
3 文化財の保護と調査を進め、未来に伝える		49～51
4 歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める		52

重点施策点検・評価表

1-1-1

基本目標									
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実								
重点施策									
1	<p>1 安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る</p> <p>① 長寿命化改修等による学校整備計画の推進</p>								
	<p>活動内容</p> <p>小中学校25校中、8割にあたる20校が建設後30年以上を経過し、学校施設の老朽化対策を早急に講じる必要があるため、平成31年3月に策定した「学校施設長寿命化計画」を基に、建築経過年数や構造体の健全度、統廃合の見込みなどを考慮し、長寿命化改修や大規模改修の対象を選定して、学校施設の整備を計画的に推進する。</p>								
	<p>点検評価</p> <table> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を上回る</td> <td>(達成率100%超)</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり</td> <td>(95~100%)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</td> <td>(80~94%)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</td> <td>(80%未満)</td> </tr> </table> <p>建築年が古い校舎の耐力度調査の実施により、躯体の健全性が示されたため、学校整備は「改築」から「長寿命化改修」へとシフトした。このため、大規模改修や部位改修を計画的に進めるための中期(5か年)整備計画を策定し、令和3年度から新型コロナウイルス感染症対策及び環境衛生改善のため、文部科学省の交付金を活用し、小中学校のトイレ洋式化工事を実施している。 今年度は小中学校2校のトイレ洋式化工事を実施し、学校内の環境衛生改善が図られた。また、令和3年度に小中学校の普通教室及びランチルーム、中学校理科室にエアコンを設置を行ったが、今年度は小中学校5校の特別支援教室と未設置の通級教室にエアコンを設置し、猛暑における快適な学習環境の改善が図られた。</p>	<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)	<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)
<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)								
<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)								
<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)								
<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)								
	<p>課題等</p> <p>トイレ洋式化は、国の補正予算を活用し事業費を前倒しして5年度も引き続き実施することになった。加えて、市の木材利用推進計画に基づく木材利用や、ゼロカーボンシティや環境に配慮した整備を改修に組み込む必要がある。</p> <p>そのため、文部科学省をはじめ各種交付金・補助金を洗い出し、積極的な活用により子どもたちの教育環境の整備を進めていかなければならない。</p>								
	<p>学識経験者等意見</p> <p>令和3年度策定した「中期(5か年)整備計画」に基づき、着実に改修を実施している。特にエアコンの設置については、小中学校のほぼすべての教室に設置を終えるとともに、トイレの洋式化も75パーセントを目標として取り組みを進めていることは評価できる。</p> <p>木材利用やゼロカーボンシティなど、地域の特長を生かした整備を改修に組み込み、今後とも教育環境の整備充実を図っていただきたい。</p>								
	<p>担当課(館)</p> <p>教育総務課</p> <p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>								

重点施策点検・評価表

1-1-2

基本目標									
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実								
重点施策									
1	<p>1 安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る</p> <p>② 学校の維持改修・修繕などの経年劣化対策実施による快適な学習環境の整備</p>								
	<p>活動内容</p> <p>施設や設備の改修・修繕が必要な箇所や、学校・PTA等から要望がある改修箇所は次年度の予算要求前に調査をし、小規模から中規模のものは改修内容の分類や必要経費を算出した上で、危険度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施する。 大規模改修や年次計画による改修工事等を計画する場合は、国の交付金を活用して実施を検討する。</p>								
	<p>点検評価</p> <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を上回る</td> <td>(達成率100%超)</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり</td> <td>(95~100%)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</td> <td>(80~94%)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</td> <td>(80%未満)</td> </tr> </table> <p>老朽化に伴う改修・修繕は、計画的な施工のほか、突発・緊急的な事故等にもすぐに対応し、学校運営に支障をきたさないよう適切に処置した。 しかし、次から次へと破損や故障が発生するため、即座に緊急度や優先順位を判断しながら限られた予算を最大限に活用し、対応した。また、8月の豪雨では学校施設への被害もあったため、復旧などの迅速な対応に努めた。</p>	<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)	<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)
<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)								
<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)								
<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)								
<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)								
	<p>課題等</p> <p>学校やPTA等からの要望は、老朽化が進む校舎や設備に対する改修がほとんどであり、年々増加する一方だが、教育活動を止めることのないよう緊急・突発的な修繕を優先せざるを得ないため、要望に対する改善が不十分である。 しかしながら、2年間で整備したエアコンの教室等への設置など、着実に進めてきたことで成果もみられるところから、引き続き、実現可能な施策の情報収集と、あらゆる予算の確保に努めていく必要がある。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>							
	<p>学識経験者等意見</p> <p>学校、PTA等の要望に応えながら、加えて緊急・突発的な要請にも迅速に対応していることを高く評価したい。 軽微な修繕については、PTAの協力をいただき、学校と連携しながら進めることも可能なのではないだろうか。学校施設の将来像を見据えながら、今後も学習環境の整備に尽力していただきたい。</p>								

重点施策点検・評価表

1-1-3

基本目標		
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実	
重点施策		
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る	担当課(館)
	③ 会計年度任用職員(校務主事等)の適正な人事管理	教育総務課
	<p>活動内容</p> <p>小中学校に配置している校務主事など、教育総務課で任用して給与の支払いや服務に関する管理している会計年度任用職員は約50人を上回る。配置校によって勤務時間や勤務条件も多種多様で、中途退職者も多いことから、適正な人事管理により児童生徒の学校生活を支援し、より良い教育環境づくりを進める。</p>	
	<p>点検評価</p> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>教育支援員や給食調理技師等に年度途中の退職者が数名発生したが、ハローワークを通じて随時補充し、学校運営や教育活動に支障をきたすことなく適正管理に努めた。</p> <p>校務主事に対して実施する必要がある安全衛生講習会については、講師(事業者)を選定し、安全作業や保守管理について知識を吸収することができた。また、新型コロナウイルス感染状況を判断しながら年2回実施した。</p>	
	<p>課題等</p> <p>毎年実施している安全衛生講習会など、会計年度任用職員に対して必要がある教育については、状況をみながら実施していく。</p> <p>今後もスキルの向上につなげる教育の機会を確保し、安全・安心な教育環境づくりを進めていく必要がある。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
	学識経験者等意見	校務主事等の会計年度任用職員の学校内における役割は大きなものがある。約50人を上回る職員の人事管理は気配りも必要とされると思うが、学校運営や教育活動に支障を来すことがなかったことは評価できる。
		職務に係る講習会(研修会)等については、今後とも継続してお願いしたい。

重点施策点検・評価表

1-2-1

基本目標		
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実	
重点施策		
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る	担当課(館)
	① 文化施設(ほくしか鹿鳴ホール)の計画的整備更新と安全・安心の確保	教育総務課
	<p>活動内容</p> <p>舞台機構設備の一部(マニラロープ等)更新工事を実施し、舞台設備の計画的な更新を行うことで故障や事故を未然に防ぎ、文化・芸術活動の安全・安心な環境を確保する。</p>	
	<p>点検評価</p> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>施設運営に必要な、舞台手動吊物(マニラロープ等)更新工事を実施し、計画どおり完成させた。 併せて、大ホール搬入口の電動シャッターの改修工事も行い、施設の改善に努めた。</p>	
	<p>課題等</p> <p>今後、建物の老朽化に伴い設備の更新が必要になり、計画的な更新計画を作成し、進めていく必要がある。また、設備の故障や更新には、施設管理者と連携しながら対応し、利用者の活動に支障をきたさないよう維持管理に努めていく。 なお、今後大規模な更新改修工事等には多額の費用が必要となるため、補助金等の財源の確保が課題となる。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
	学識経験者等意見	予算的にも高額となる更新工事であったと思うが、予定どおり完成することで安全・安心な環境を確保できた。今後とも更新改修工事の実施に当たっては、施設管理者と連携を密にしながら対応していただきたい。

重点施策点検・評価表

1-2-2

基本目標	
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実
重点施策	
2	<p>② 豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る</p> <p>② 社会教育施設の充実と安全性の確保</p>
活動内容	<p>施設の冷暖房を賄うボイラー更新工事(中央公民館)を行い、地域コミュニティの核となる施設の良好な環境を維持する。</p> <p>経年劣化による故障や破損には応急処置などで対応しながら施設の機能維持を図り、速やかに必要な予算を確保して修繕や改修を行い、利用者の安心と安全確保を図る。</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>中央公民館はボイラー更新工事を12月までに完成させ、施設の利用に支障をきたさないように運営できたほか、高圧気中負荷開閉器の更新工事も行い、地域コミュニティの核となる中央公民館の利用環境の向上と良好で安定的な施設整備に努めた。</p>
課題等	<p>建物の老朽化に伴い設備の故障が増えてきている。今後の設備の改修・整備の更新には、利用者の活動に支障をきたさないよう更新計画を作成し、進めていく必要がある。</p>
学識経験者等意見	<p>地域の核として、広く市民に利用されている中央公民館は、ボイラー更新等の工事を降雪前に完成したことで、利用者の安全・安心を確保できた。</p> <p>建物の老朽化により、さまざまな故障が増えることが予想されるが、今後とも予算等を確保しつつ修繕や改修を行っていただきたい。</p>

重点施策点検・評価表

1-2-3

基本目標		
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実	
重点施策		
2	<p>② 豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る</p> <p>③ 社会教育施設の適正管理</p>	
活動内容	<p>施設の運営に直接影響を及ぼすキュービクル更新工事(北地区コミュニティセンター別館棟)や高圧気中開閉器更新工事(中央公民館)、屋根の防水性能維持のため屋根防水改修工事(田代公民館本郷分館・早口分館)や屋根葺替改修工事(二井田公民館麓西分館体育館)を実施する。また、外壁の防水機能を維持するため外壁改修工事(比内公民館東側)を行い、年間を通じて管理が必要な保守点検等を施設管理者と調整を図りながら進め、良好な施設運営と適正な施設管理を維持する。</p>	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>当初から計画していた工事は予定どおり完成させることができた。また、施設運営に直接影響を及ぼす故障箇所については、工事を早期に施工した。設備の故障や不具合には、施設管理者と連携しながら速やかに対応し、利用者の活動に支障をきたさないよう維持管理に努めた。</p>	
課題等	<p>建物の老朽化に伴う修繕はもとより、設備の故障が多くなってきている。保有する50施設のうち約6割が築30年を超えてきており現状から、故障による施設利用の停止とならないように計画的な更新計画を作成し、進めていく必要がある。</p> <p>また、令和3年3月に策定した「大館市社会教育施設長寿命化計画」に基づき、施設所管課の生涯学習課と連携し、施設の集約化及び存続施設の改修について、計画的に実施するため整備計画を策定しなければならない。</p>	取組の方向性
学識経験者等意見	<p>大館市内の公民館の数は多く、その分、維持・管理は難しくなってきていると思う。その中でも、北地区コミュニティセンターや田代公民館、比内公民館などの改修に着手し、予定どおり完成できたことは評価できる。</p> <p>将来的には、数多い公民館の統廃合等が話題となる時期が来るものと思われる。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>

重点施策点検・評価表

1-3-1

基本目標													
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実												
重点施策													
3	<table border="1"> <tr> <td>① 教育委員会施策の情報発信の強化</td><td>担当課(館) 教育総務課</td></tr> <tr> <td>活動内容</td><td> <p>毎月開催する教育委員会会議では、実施する施策やその進捗状況などを的確に報告し、協議や討議内容を議事録にまとめてホームページ等で公表する。</p> <p>教育委員会事務事業の点検・評価表や総合教育会議の議事録など、教育委員会の活動内容を市民をはじめ全国に発信し、取り組みを進めている教育の産業化構想やおおだて型教育の周知を図るとともに、大館で学ぶ移住・交流人口の拡大に努める。</p> <p>教育委員会活動の透明性を図るため、ホームページや定例記者会見、報道機関などを活用し、情報発信をより積極的に行う。</p> </td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>教育委員会会議及び総合教育会議や、教育委員会事務事業の点検・評価の結果を市ホームページで公表し、大館の教育が取り組む活動状況への理解を深めていただくとともに、教育委員会が進めた政策の透明化を図った。</p> </td></tr> <tr> <td>課題等</td><td> <p>大館の教育の理念と実践結果を全国に情報発信する手段として、主に市ホームページを活用しているが、日常生活の中における情報発信媒体の多様化に伴い、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等のアプリケーションサービスを活用した発信手段の検討を進めていく必要がある。</p> </td><td>取組の方向性</td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td> <p>大館市の教育については、各種メディアで紹介されるなど、注目を浴びている。教育委員会として、それらの活動を広く市民等に知っていただくことは、教育効果を高める上で大切な取り組みの一つである。</p> <p>ホームページ等を中心とした情報発信となるが、伝えたい対象によっては、紙ベースの良さもあることから総合的に判断し、より効果的なメディアを活用していただきたい。</p> </td><td> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p> </td></tr> </table>	① 教育委員会施策の情報発信の強化	担当課(館) 教育総務課	活動内容	<p>毎月開催する教育委員会会議では、実施する施策やその進捗状況などを的確に報告し、協議や討議内容を議事録にまとめてホームページ等で公表する。</p> <p>教育委員会事務事業の点検・評価表や総合教育会議の議事録など、教育委員会の活動内容を市民をはじめ全国に発信し、取り組みを進めている教育の産業化構想やおおだて型教育の周知を図るとともに、大館で学ぶ移住・交流人口の拡大に努める。</p> <p>教育委員会活動の透明性を図るため、ホームページや定例記者会見、報道機関などを活用し、情報発信をより積極的に行う。</p>	点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>教育委員会会議及び総合教育会議や、教育委員会事務事業の点検・評価の結果を市ホームページで公表し、大館の教育が取り組む活動状況への理解を深めていただくとともに、教育委員会が進めた政策の透明化を図った。</p>	課題等	<p>大館の教育の理念と実践結果を全国に情報発信する手段として、主に市ホームページを活用しているが、日常生活の中における情報発信媒体の多様化に伴い、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等のアプリケーションサービスを活用した発信手段の検討を進めていく必要がある。</p>	取組の方向性	学識経験者等意見	<p>大館市の教育については、各種メディアで紹介されるなど、注目を浴びている。教育委員会として、それらの活動を広く市民等に知っていただくことは、教育効果を高める上で大切な取り組みの一つである。</p> <p>ホームページ等を中心とした情報発信となるが、伝えたい対象によっては、紙ベースの良さもあることから総合的に判断し、より効果的なメディアを活用していただきたい。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
① 教育委員会施策の情報発信の強化	担当課(館) 教育総務課												
活動内容	<p>毎月開催する教育委員会会議では、実施する施策やその進捗状況などを的確に報告し、協議や討議内容を議事録にまとめてホームページ等で公表する。</p> <p>教育委員会事務事業の点検・評価表や総合教育会議の議事録など、教育委員会の活動内容を市民をはじめ全国に発信し、取り組みを進めている教育の産業化構想やおおだて型教育の周知を図るとともに、大館で学ぶ移住・交流人口の拡大に努める。</p> <p>教育委員会活動の透明性を図るため、ホームページや定例記者会見、報道機関などを活用し、情報発信をより積極的に行う。</p>												
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>教育委員会会議及び総合教育会議や、教育委員会事務事業の点検・評価の結果を市ホームページで公表し、大館の教育が取り組む活動状況への理解を深めていただくとともに、教育委員会が進めた政策の透明化を図った。</p>												
課題等	<p>大館の教育の理念と実践結果を全国に情報発信する手段として、主に市ホームページを活用しているが、日常生活の中における情報発信媒体の多様化に伴い、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等のアプリケーションサービスを活用した発信手段の検討を進めていく必要がある。</p>	取組の方向性											
学識経験者等意見	<p>大館市の教育については、各種メディアで紹介されるなど、注目を浴びている。教育委員会として、それらの活動を広く市民等に知っていただくことは、教育効果を高める上で大切な取り組みの一つである。</p> <p>ホームページ等を中心とした情報発信となるが、伝えたい対象によっては、紙ベースの良さもあることから総合的に判断し、より効果的なメディアを活用していただきたい。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>											

重点施策点検・評価表

1-3-2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める	担当課(館)	
	② 東北都市教育長協議会役員会・定期総会開催時における「おおだて型授業」の発信	教育総務課	
	活動内容	東北都市の教育長が集う「東北都市教育長協議会」の役員会及び総会(4年4月)が45年ぶりに本市で開催される。有浦小学校・東中学校の授業を視察する予定としているため、おおだて型授業(響学)を具現化する絶好の機会と捉え、全国に情報を発信する。	
	点検評価	<p>■ 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>4月21日は東北都市教育長協議会の役員会、22日は定期総会及び研修会が本市で開催された。 新型コロナウイルス感染症の影響により開催が危ぶまれたが、無事開催され東北各地の教育長をはじめ教育関係者ら49人が参加された。 初日は役員会のほか、下川沿中学校の生徒20人による伝統芸能「川口獅子踊り」の演舞を観覧していただいたほか、有浦小学校と東中学校の授業視察も行われ、本市の「おおだて型授業(響学)」による共感的共働的学び合いや対話的学び合いを発信でき、参加者からは非常に高い評価をいただいた。</p>	
	課題等	<p>今回の「東北都市教育長協議会の定期総会及び研修会」の成功を踏まえて、令和5年7月6日と7日の両日、「東北市町村教育委員会連合会定期総会及び教育委員・教育長研修会」が本市で開催されることが決定している。</p> <p>本市での開催は初となるが、万全の体制で東北各市町村の教育委員・教育長をお迎えし、初日には市内小中学校全25校で行われる授業視察で、ふるさとキャリア教育に取り組んできた11年の成果について理解を深めてもらい、東北各地に「おおだて型授業(響学)」を発信していく。</p>	取組の方向性
	学識経験者等意見	<p>このように大きな協議会・総会が大館市で開催されたことは、学校をはじめ教育関係者の努力の成果と考える。令和4年度に引き続き、より規模を拡大させて令和5年度も開催される。</p> <p>大館の教育を全国に発信することによって、教育ツーリズムにつながることも期待できる。また、地元大館市民にも大館の教育のよさを実感できるよう、情報発信に努めていただきたい。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度

重点施策点検・評価表

2-1-1

基本目標													
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化												
重点施策													
1	<p>ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める</p> <p>① SDGsの視点からの価値付けによるふるさとキャリア教育の深化</p> <table border="1"> <tr> <td>活動内容</td><td>ふるさとキャリア教育12年目を迎える、これまでの各校の実践や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取組を、SDGsの視点から捉え直し、価値づけていくことによるふるさとキャリア教育や各校の百花繚乱作戦を一層充実させる。子どもや教職員、保護者や地域も活動の意義や目的を再確認することで、これから「未来大館市民」育成の教育的効果を高めていく。</td></tr> <tr> <td></td><td> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <p>令和4年度の子どもハローワーク参加人数はのべ約600人となり、昨年度より150人増えた。きりたんぽまつり等大型イベントでのボランティア、様々な分野のプロフェッショナルの協力を得て、コロナ禍であっても体験活動を児童生徒に提供できた。活動の中には、SDGs17の目標「③すべての人に健康と福祉を」「⑧働きがいも経済成長も」に係わるものが多い。子どもハローワークでの体験活動や各校の百花繚乱作戦の様子を「まなびしんぶん」にまとめ、各校に情報発信した。</p> <p>また、子どもサミットの活動については、各校でSDGsの視点から特色ある様々な取組や活動が行われた。各校の様々な取組や活動をまとめた紹介ポスターを生涯学習フェスティバルで展示し、市民に広く呼びかけることができた。</p> <p>秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙においても、未来大館市民につながる項目において、全て県平均を上回っている。(県を100とした市の指標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがある……………(102.7) 将来の夢や目標をもっている……………(101.1) 人の役に立つ人間になりたいと思う……………(100.9) 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う…(103.4) </td></tr> <tr> <td>課題等</td><td> <p>子どもハローワークの申込者が学校によって差があることから、募集に関する情報提供(配付の仕方や校内放送等)を、各校で工夫するように呼びかける。</p> <p>子どもサミットについては、今後も市環境課との連携を継続するとともに、各校が今まで行ってきた活動をSDGsの視点から価値付けしていく。持続可能な大館の未来のために、様々な「ロス削減活動」の実施を考えている。また子どもサミット代表会議の会場を本庁の議場に移し、大館市民に向けて子どもたちの活動をさらに広めたい。</p> </td><td>取組の方向性</td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td> <p>子どもハローワーク、子どもサミットともに順調に深化・発展していると感じる。また、その中で育った人材が大館市に就職したという声を聞くこともあり、うれしいことである。</p> <p>子どもサミットを本庁の議場で開催する予定のこと、子どもサミットのメンバーが大館市の児童生徒のリーダーとして、今まで以上に活躍することを期待したい。</p> </td><td> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td></tr> </table>	活動内容	ふるさとキャリア教育12年目を迎える、これまでの各校の実践や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取組を、SDGsの視点から捉え直し、価値づけていくことによるふるさとキャリア教育や各校の百花繚乱作戦を一層充実させる。子どもや教職員、保護者や地域も活動の意義や目的を再確認することで、これから「未来大館市民」育成の教育的効果を高めていく。		<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	点検評価	<p>令和4年度の子どもハローワーク参加人数はのべ約600人となり、昨年度より150人増えた。きりたんぽまつり等大型イベントでのボランティア、様々な分野のプロフェッショナルの協力を得て、コロナ禍であっても体験活動を児童生徒に提供できた。活動の中には、SDGs17の目標「③すべての人に健康と福祉を」「⑧働きがいも経済成長も」に係わるものが多い。子どもハローワークでの体験活動や各校の百花繚乱作戦の様子を「まなびしんぶん」にまとめ、各校に情報発信した。</p> <p>また、子どもサミットの活動については、各校でSDGsの視点から特色ある様々な取組や活動が行われた。各校の様々な取組や活動をまとめた紹介ポスターを生涯学習フェスティバルで展示し、市民に広く呼びかけることができた。</p> <p>秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙においても、未来大館市民につながる項目において、全て県平均を上回っている。(県を100とした市の指標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがある……………(102.7) 将来の夢や目標をもっている……………(101.1) 人の役に立つ人間になりたいと思う……………(100.9) 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う…(103.4) 	課題等	<p>子どもハローワークの申込者が学校によって差があることから、募集に関する情報提供(配付の仕方や校内放送等)を、各校で工夫するように呼びかける。</p> <p>子どもサミットについては、今後も市環境課との連携を継続するとともに、各校が今まで行ってきた活動をSDGsの視点から価値付けしていく。持続可能な大館の未来のために、様々な「ロス削減活動」の実施を考えている。また子どもサミット代表会議の会場を本庁の議場に移し、大館市民に向けて子どもたちの活動をさらに広めたい。</p>	取組の方向性	学識経験者等意見	<p>子どもハローワーク、子どもサミットともに順調に深化・発展していると感じる。また、その中で育った人材が大館市に就職したという声を聞くこともあり、うれしいことである。</p> <p>子どもサミットを本庁の議場で開催する予定のこと、子どもサミットのメンバーが大館市の児童生徒のリーダーとして、今まで以上に活躍することを期待したい。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
活動内容	ふるさとキャリア教育12年目を迎える、これまでの各校の実践や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取組を、SDGsの視点から捉え直し、価値づけていくことによるふるさとキャリア教育や各校の百花繚乱作戦を一層充実させる。子どもや教職員、保護者や地域も活動の意義や目的を再確認することで、これから「未来大館市民」育成の教育的効果を高めていく。												
	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)												
点検評価	<p>令和4年度の子どもハローワーク参加人数はのべ約600人となり、昨年度より150人増えた。きりたんぽまつり等大型イベントでのボランティア、様々な分野のプロフェッショナルの協力を得て、コロナ禍であっても体験活動を児童生徒に提供できた。活動の中には、SDGs17の目標「③すべての人に健康と福祉を」「⑧働きがいも経済成長も」に係わるものが多い。子どもハローワークでの体験活動や各校の百花繚乱作戦の様子を「まなびしんぶん」にまとめ、各校に情報発信した。</p> <p>また、子どもサミットの活動については、各校でSDGsの視点から特色ある様々な取組や活動が行われた。各校の様々な取組や活動をまとめた紹介ポスターを生涯学習フェスティバルで展示し、市民に広く呼びかけることができた。</p> <p>秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙においても、未来大館市民につながる項目において、全て県平均を上回っている。(県を100とした市の指標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分にはよいところがある……………(102.7) 将来の夢や目標をもっている……………(101.1) 人の役に立つ人間になりたいと思う……………(100.9) 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う…(103.4) 												
課題等	<p>子どもハローワークの申込者が学校によって差があることから、募集に関する情報提供(配付の仕方や校内放送等)を、各校で工夫するように呼びかける。</p> <p>子どもサミットについては、今後も市環境課との連携を継続するとともに、各校が今まで行ってきた活動をSDGsの視点から価値付けしていく。持続可能な大館の未来のために、様々な「ロス削減活動」の実施を考えている。また子どもサミット代表会議の会場を本庁の議場に移し、大館市民に向けて子どもたちの活動をさらに広めたい。</p>	取組の方向性											
学識経験者等意見	<p>子どもハローワーク、子どもサミットともに順調に深化・発展していると感じる。また、その中で育った人材が大館市に就職したという声を聞くこともあり、うれしいことである。</p> <p>子どもサミットを本庁の議場で開催する予定のこと、子どもサミットのメンバーが大館市の児童生徒のリーダーとして、今まで以上に活躍することを期待したい。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度											

重点施策点検・評価表

2-1-2

基本目標											
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化										
重点施策											
1	<p>ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める</p> <p>② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実</p> <table border="1"> <tr> <td>活動内容</td><td>いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。不登校対策については、毎月実施している「欠席調査」において、年度の切り替わりにおける情報の引継ぎを確実に行い、欠席状況の実態を正確に把握するとともに、前年度の支援体制が生きる対応の在り方を模索しながら、学校への助言をこまめに行う。</td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>不登校及び不登校傾向の児童生徒数は増加傾向にあるが、成果点としては、関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが、児童生徒の特性の理解、具体的な支援策、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつなげることができている。また、市教育研究会学校保健部会が中心となって、メディアコントロール力向上に向けた活動が進められている。保護者への啓発活動とともに、同じ小学校区にある就学前施設、小学校、中学校で連携しながら、子どもたち自身がメディア使用を自分でコントロールし、健康的な生活習慣を身に付けることができるよう様々な取り組みを行っている。</p> </td></tr> <tr> <td>課題等</td><td> <p>不登校の原因は様々で多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。さらに、不登校児童生徒の中には、メディア依存やそれに伴う昼夜逆転の生活の問題を抱える割合が増えている。今後も、各関係機関と不登校の未然防止の取り組みや支援の在り方について連携していくとともに、各校における指導体制づくりと組織的対応が迅速に進むように働きかけをしていく。</p> </td><td>取組の方向性</td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td> <p>不登校の問題解決には、関係機関の知恵を結集して取り組む必要があり、たいへん難しいものがある。そのような状況下でありながら、各種施策を有機的に結び付け、解決に向けて取り組んでいることを評価したい。</p> <p>新しく教育委員会で始めた「幼保小連携事業」の取組が、今後の解決への糸口になることを期待したい。</p> </td><td> <p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p> </td></tr> </table>	活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。不登校対策については、毎月実施している「欠席調査」において、年度の切り替わりにおける情報の引継ぎを確実に行い、欠席状況の実態を正確に把握するとともに、前年度の支援体制が生きる対応の在り方を模索しながら、学校への助言をこまめに行う。	点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>不登校及び不登校傾向の児童生徒数は増加傾向にあるが、成果点としては、関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが、児童生徒の特性の理解、具体的な支援策、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつなげることができている。また、市教育研究会学校保健部会が中心となって、メディアコントロール力向上に向けた活動が進められている。保護者への啓発活動とともに、同じ小学校区にある就学前施設、小学校、中学校で連携しながら、子どもたち自身がメディア使用を自分でコントロールし、健康的な生活習慣を身に付けることができるよう様々な取り組みを行っている。</p>	課題等	<p>不登校の原因は様々で多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。さらに、不登校児童生徒の中には、メディア依存やそれに伴う昼夜逆転の生活の問題を抱える割合が増えている。今後も、各関係機関と不登校の未然防止の取り組みや支援の在り方について連携していくとともに、各校における指導体制づくりと組織的対応が迅速に進むように働きかけをしていく。</p>	取組の方向性	学識経験者等意見	<p>不登校の問題解決には、関係機関の知恵を結集して取り組む必要があり、たいへん難しいものがある。そのような状況下でありながら、各種施策を有機的に結び付け、解決に向けて取り組んでいることを評価したい。</p> <p>新しく教育委員会で始めた「幼保小連携事業」の取組が、今後の解決への糸口になることを期待したい。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。不登校対策については、毎月実施している「欠席調査」において、年度の切り替わりにおける情報の引継ぎを確実に行い、欠席状況の実態を正確に把握するとともに、前年度の支援体制が生きる対応の在り方を模索しながら、学校への助言をこまめに行う。										
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>不登校及び不登校傾向の児童生徒数は増加傾向にあるが、成果点としては、関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが、児童生徒の特性の理解、具体的な支援策、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつなげることができている。また、市教育研究会学校保健部会が中心となって、メディアコントロール力向上に向けた活動が進められている。保護者への啓発活動とともに、同じ小学校区にある就学前施設、小学校、中学校で連携しながら、子どもたち自身がメディア使用を自分でコントロールし、健康的な生活習慣を身に付けることができるよう様々な取り組みを行っている。</p>										
課題等	<p>不登校の原因は様々で多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。さらに、不登校児童生徒の中には、メディア依存やそれに伴う昼夜逆転の生活の問題を抱える割合が増えている。今後も、各関係機関と不登校の未然防止の取り組みや支援の在り方について連携していくとともに、各校における指導体制づくりと組織的対応が迅速に進むように働きかけをしていく。</p>	取組の方向性									
学識経験者等意見	<p>不登校の問題解決には、関係機関の知恵を結集して取り組む必要があり、たいへん難しいものがある。そのような状況下でありながら、各種施策を有機的に結び付け、解決に向けて取り組んでいることを評価したい。</p> <p>新しく教育委員会で始めた「幼保小連携事業」の取組が、今後の解決への糸口になることを期待したい。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>									

重点施策点検・評価表

2-2-1

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
2	地域学校協働活動を推進し、スクール・コミュニティの形成を図る	担当課(館)
	① ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の充実(R型CSの構築)	学校教育課 教育研究所
	<p>活動内容</p> <p>ふるさとキャリア教育夢事業、ふるさとキャリア教育ステップアップ事業を活用して、各校の百花繚乱作戦をより充実・発展させ、地域全体を巻き込んだ教育活動にしていく。地域の学習材等の教育資源を活用した授業や起業体験活動の開発を支援、奨励し拡充していく。</p>	
	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p>	
	<p>児童・生徒の自立と気概を備えた人材を育成するため、創意工夫による特色ある教育活動等の事業を実施する市立小中学校に対し、その活動に要する経費を支援する「ふるさとキャリア教育ステップアップ事業」に4校が応募した。活動内容がすばらしかったので4校とも採択された。</p> <p>①有浦小学校「フランスへJUMP！秋田・大館をPR」 ②釧内小学校「桜三心 学校の桜を守るんジャー！」 ③花岡小学校「中庭ビオトープ」 ④成章中「花ボラパワーアップ」</p> <p>4校は、予算を有効に活用し、地域貢献や世界に目を向けた活動の展開が見られた。例えば、有浦小はフランスで開かれた総合食品見本「SIAL PARIS 2022」の来場者に向け、大館を紹介するパンフレットやポスターを製作した。市長らに託されたパンフレット等は来場者に配付され喜ばれた。成章中の花ボランティアは花の鉢を新調し、十二所地区の独居老人、老人世帯、福祉施設等へ生徒たちが育てた花を、各家庭を回りプレゼントする活動である。成章中生の笑顔と元気を地域の方々に届ける大切な活動であり、地域の見守りにも深く関わっている。</p>	
	<p>「ふるさとキャリア教育ステップアップ事業」について、校長会や教頭会でも事業について説明し、これまで活用していない学校(未実施10校)には、過去5年の事業や主な支出をまとめた採択校一覧を配付し、積極的な活用を促す。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	<p>課題等</p> <p>特色ある学校経営のため、予算的裏付けとして「ふるさとキャリア教育夢事業(全小・中学校対象)」、「同ステップアップ事業」を企画・運営していることを高く評価したい。</p> <p>各学校がその地域の状況を把握・分析し、課題を洗い出し、解決の道筋を歩むことで、学校としての特色が生まれるとともに、児童生徒、学校、地域社会が元気になることを期待したい。</p>	
	<p>学識経験者等意見</p>	

重点施策点検・評価表

2-2-2

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
2	地域学校協働活動を推進し、スクール・コミュニティの形成を図る	担当課(館)
	② 地域に開かれた教育活動の取組による元気の発信と地域貢献	学校教育課 教育研究所
	<p>活動内容</p> <p>令和型の大館版コミュニティ・スクール構築(令和5年～)に向け、学校評議会委員会や外部評議会委員会、地域学校協働活動、PTA活動など、各校がこれまで築いてきた、ふるさとキャリア教育の連携体制について、統合・拡充等再構築できるよう、各校の訪問や面談等を通して確認・助言をしながら、特色ある学校経営の充実を支援する。</p>	
	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95～100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80～94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>令和5年度からの設置に向けて、実際に運営する学校長の理解を深めるため、学校運営協議会制度及びコミュニティ・スクールに関する研修を7月に行うとともに、疑義に対しても回答しながら組織づくりを支援した。</p> <p>学校では地域代表者と協議するなどにより、単独校での設置か合同校での設置かなどの協議会の構成や、委員構成について検討し、各校の協議の結果、学区内に小・中学校が各1校の地域である、成章小・中、南小・中及び川口小・下川沿中は小・中合同での設置となった。</p> <p>各校のふるさとキャリア教育を支える既存の仕組みを学校経営に位置づけ、社会に開かれた教育課程、学校経営を推進するため、地域全体を巻き込んだ特色ある学校活動の展開を計画している。</p>	
	<p>点検評価</p>	
	<p>課題等</p> <p>本市は全校へのコミュニティ・スクール導入以前から、学校は地域社会を形成する重要な拠点と位置づけ、地域の課題をテーマに各校ごとの特色ある「ふるさとキャリア教育夢事業」などに取り組みながら、地域との連携を深めてきている。</p> <p>コミュニティ・スクールへの移行が学校の負担軽減になることに加え、地域の課題解決にもなるよう、これまでのふるさとキャリア教育をベースとして、更に地域を巻き込んだ活動となるよう支援する。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 繼続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>令和5年度から始まるコミュニティ・スクールについて、設置校である城西小学校の成果を踏まえ推進することになる。令和型ということで、小・中合同の学校運営協議会の設置もあり、ユニークさを感じる。</p> <p>地域コミュニティの核となる学舎として、地域社会を巻き込み、地域社会の活性化もあわせて目指してほしい。</p>	

重点施策点検・評価表

2-3-1

基本目標												
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化											
重点施策												
3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当課(館)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校教育課 教育研究所</td> </tr> </tbody> </table> <p>① 第0次学力向上に関する提言の実践と、「おおだて型学力」育成に向けた授業改善</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th><th>新しい学習指導要領等、今日的な教育課題に対応するため、これまで伸長してきた「おおだて型学力」を学習指導要領が求める学力観と整合させ、第0次学力向上に関する提言として各小中学校に周知・定着させる。また、この提言において重視する「おおだて型授業(響学)」の確立に向けては、「共感的・協働的学び合い」が、これまで以上に充実するよう、学校訪問等により適切に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会を中心として、第0次提言についての実践を周知し、評価資料を収集する。</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">点検評価</td><td> <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>共感的・協働的学び合い(響学)の質を高めるために、子どもの学びの原点である授業づくりにスポットをあてた「第0次学力向上に関する提言」。4月の大館市教育研究会第1回総合研究会の全体会では、小中学校の全教職員に向けて周知を図った。その後、市教委学校訪問(全25校)において、授業での児童生徒や教員の姿など具体的な場面を基に、指導・支援にあたった。</p> <p>おおだて型学力推進委員会では、「SHINKA」第65号～第71号まで発行し、第0次学力向上に関する提言についての様々な分野の実践を各校に周知した。県学習状況調査の児童生徒質問紙では、おおだて型学力に関わる全ての設問において、肯定的な回答の割合が県平均を上回った。また、秋田県教職キャリア指標第1～第2ステージ(前半)である採用3～5年目の教員を対象に、授業マイスターの優れた授業を公開し、教育に対する姿勢や志を学ぶ「授業研修」を行った。</p> <p>学校や校種、教科の垣根を越えて、延べ76人の教員が授業マイスター(9人)の授業を参観した。授業後のミニ研修会では、授業者の思いや教材研究について学んだり、質問したりできる貴重な機会となった。</p> </td></tr> <tr> <td> <p>「第0次学力向上に関する提言」に関しては、各校の取り組み状況は概ね良好であるが、他県からを含めた新規採用者が増えているため、「おおだて型授業」がまだ難しい教員もいる。また、秋田県学習状況調査では、県との比較だけでなく、同一集団の前年度との経年変化を提示しながら、各校に結果を活用した取り組みを促したい。また、引き続き「第0次提言」を周知、具現化していきたい。</p> </td></tr> <tr> <td>取組の方向性</td><td> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p> </td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td> <p>「おおだて型学力」を目指した「第0次学力向上提言」の実践に向け、市教研、学校訪問、冊子「研」などを活用して組織的に取り組んでいることを評価したい。また、授業力向上のため、各種施策を企画・運営することで、特に若手教員の授業力向上の一助になっていると思う。</p> <p>各種調査における児童生徒の反応もよく、児童生徒のますますの成長が期待できる。</p> </td></tr> </tbody> </table>	担当課(館)	学校教育課 教育研究所	活動内容	新しい学習指導要領等、今日的な教育課題に対応するため、これまで伸長してきた「おおだて型学力」を学習指導要領が求める学力観と整合させ、第0次学力向上に関する提言として各小中学校に周知・定着させる。また、この提言において重視する「おおだて型授業(響学)」の確立に向けては、「共感的・協働的学び合い」が、これまで以上に充実するよう、学校訪問等により適切に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会を中心として、第0次提言についての実践を周知し、評価資料を収集する。	点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>共感的・協働的学び合い(響学)の質を高めるために、子どもの学びの原点である授業づくりにスポットをあてた「第0次学力向上に関する提言」。4月の大館市教育研究会第1回総合研究会の全体会では、小中学校の全教職員に向けて周知を図った。その後、市教委学校訪問(全25校)において、授業での児童生徒や教員の姿など具体的な場面を基に、指導・支援にあたった。</p> <p>おおだて型学力推進委員会では、「SHINKA」第65号～第71号まで発行し、第0次学力向上に関する提言についての様々な分野の実践を各校に周知した。県学習状況調査の児童生徒質問紙では、おおだて型学力に関わる全ての設問において、肯定的な回答の割合が県平均を上回った。また、秋田県教職キャリア指標第1～第2ステージ(前半)である採用3～5年目の教員を対象に、授業マイスターの優れた授業を公開し、教育に対する姿勢や志を学ぶ「授業研修」を行った。</p> <p>学校や校種、教科の垣根を越えて、延べ76人の教員が授業マイスター(9人)の授業を参観した。授業後のミニ研修会では、授業者の思いや教材研究について学んだり、質問したりできる貴重な機会となった。</p>	<p>「第0次学力向上に関する提言」に関しては、各校の取り組み状況は概ね良好であるが、他県からを含めた新規採用者が増えているため、「おおだて型授業」がまだ難しい教員もいる。また、秋田県学習状況調査では、県との比較だけでなく、同一集団の前年度との経年変化を提示しながら、各校に結果を活用した取り組みを促したい。また、引き続き「第0次提言」を周知、具現化していきたい。</p>	取組の方向性	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>	学識経験者等意見	<p>「おおだて型学力」を目指した「第0次学力向上提言」の実践に向け、市教研、学校訪問、冊子「研」などを活用して組織的に取り組んでいることを評価したい。また、授業力向上のため、各種施策を企画・運営することで、特に若手教員の授業力向上の一助になっていると思う。</p> <p>各種調査における児童生徒の反応もよく、児童生徒のますますの成長が期待できる。</p>
担当課(館)												
学校教育課 教育研究所												
活動内容	新しい学習指導要領等、今日的な教育課題に対応するため、これまで伸長してきた「おおだて型学力」を学習指導要領が求める学力観と整合させ、第0次学力向上に関する提言として各小中学校に周知・定着させる。また、この提言において重視する「おおだて型授業(響学)」の確立に向けては、「共感的・協働的学び合い」が、これまで以上に充実するよう、学校訪問等により適切に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会を中心として、第0次提言についての実践を周知し、評価資料を収集する。											
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>共感的・協働的学び合い(響学)の質を高めるために、子どもの学びの原点である授業づくりにスポットをあてた「第0次学力向上に関する提言」。4月の大館市教育研究会第1回総合研究会の全体会では、小中学校の全教職員に向けて周知を図った。その後、市教委学校訪問(全25校)において、授業での児童生徒や教員の姿など具体的な場面を基に、指導・支援にあたった。</p> <p>おおだて型学力推進委員会では、「SHINKA」第65号～第71号まで発行し、第0次学力向上に関する提言についての様々な分野の実践を各校に周知した。県学習状況調査の児童生徒質問紙では、おおだて型学力に関わる全ての設問において、肯定的な回答の割合が県平均を上回った。また、秋田県教職キャリア指標第1～第2ステージ(前半)である採用3～5年目の教員を対象に、授業マイスターの優れた授業を公開し、教育に対する姿勢や志を学ぶ「授業研修」を行った。</p> <p>学校や校種、教科の垣根を越えて、延べ76人の教員が授業マイスター(9人)の授業を参観した。授業後のミニ研修会では、授業者の思いや教材研究について学んだり、質問したりできる貴重な機会となった。</p>											
	<p>「第0次学力向上に関する提言」に関しては、各校の取り組み状況は概ね良好であるが、他県からを含めた新規採用者が増えているため、「おおだて型授業」がまだ難しい教員もいる。また、秋田県学習状況調査では、県との比較だけでなく、同一集団の前年度との経年変化を提示しながら、各校に結果を活用した取り組みを促したい。また、引き続き「第0次提言」を周知、具現化していきたい。</p>											
取組の方向性	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>											
学識経験者等意見	<p>「おおだて型学力」を目指した「第0次学力向上提言」の実践に向け、市教研、学校訪問、冊子「研」などを活用して組織的に取り組んでいることを評価したい。また、授業力向上のため、各種施策を企画・運営することで、特に若手教員の授業力向上の一助になっていると思う。</p> <p>各種調査における児童生徒の反応もよく、児童生徒のますますの成長が期待できる。</p>											

重点施策点検・評価表

2-3-2

基本目標																						
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化																					
重点施策																						
3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当課(館)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>② 「おおだて型授業(響学)」におけるICT活用スタイルの実践的研究</td><td>学校教育課 教育研究所</td></tr> <tr> <td>活動内容</td><td>全小中学校に整備された一人一台タブレット、校内Wi-Fi環境、電子黒板等を活用して、「共感的・協働的な学び合い」や「一人たりとも置き去りにしない授業」の実現に向けた調査研究を行う(2年次)。秋田県教育委員会委嘱の「ICTを活用した授業改善支援事業」の指定校となっている城南小学校(3か年)の研究実践を中心しながら、「学び合いを助ける教具としてのICT」の効果的な実践を随時市全体に広げることで、全小中学校の取り組みとする。</td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <table border="1"> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を上回る</td><td>(達成率100%超)</td></tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり</td><td>(95~100%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</td><td>(80~94%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</td><td>(80%未満)</td></tr> </tbody> </table> <p>市教委学校訪問の授業参観では、学習支援ソフト(ロイロノート)を中心にICTの活用が小中学校とも進んできた。活用状況について、各校にアンケートをとったところ、昨年度より低学年から中学生まで様々な教科で使われ始めていることが分かった。また、県の「ICTを活用した授業改善支援事業」の推進校である城南小学校での授業公開に、就学前施設や全25校のICT活用推進委員や研究主任等約90人が参加した。ICT活用推進委員と城南小学校が協力し、小中学校の国語、算数・数学の全単元に、ICTを活用した場面を示した年間指導計画を作成し、令和5年度から活用する。</p> <p>1月に行われた大館市教職員研究実践会では、城南小や釧内小、下川沿中、田代中から、より実践的な使い方の発表があり、多くの教職員が熱心に聴講していた。ICTをおおだて型授業の中により効果的に活用するという「ICTの大館最適化」をこれからも崩さずに進めていきたい。電子黒板や教師用タブレットが不足していたが、来年度は設置台数が増えるとICTを活用した実践が増え、目標が達成できると思われる。</p> </td></tr> <tr> <td>課題等</td><td> <p>ICTを活用した授業改善支援事業(3年目)のモデル校となる城南小学校において授業公開を行い、授業参観や分科会での情報交換を通して、各校の活用が進むように支援していく。</p> <p>ICT支援員が各校を訪問しICT機器の操作支援を行うことで、デジタル教科書や学習支援ソフト(ロイロノート)、電子黒板の活用をさらに促進する。</p> </td><td>取組の方向性</td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td> <p>ICTの活用は、これからを生きる児童生徒にとって必須の学力と思う。県の授業改善支援事業推進校である城南小学校の実践に加え、教職員研究実践発表会では、他小・中学校からも発表があるなど、先生方の関心は高い。</p> <p>台数不足が指摘されていた「電子黒板」について、令和5年度には数多くの導入が見込まれることは、学校にとってうれしいニュースである。</p> </td><td> <input checked="" type="checkbox"/> 繼続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td></tr> </tbody> </table>	担当課(館)	② 「おおだて型授業(響学)」におけるICT活用スタイルの実践的研究	学校教育課 教育研究所	活動内容	全小中学校に整備された一人一台タブレット、校内Wi-Fi環境、電子黒板等を活用して、「共感的・協働的な学び合い」や「一人たりとも置き去りにしない授業」の実現に向けた調査研究を行う(2年次)。秋田県教育委員会委嘱の「ICTを活用した授業改善支援事業」の指定校となっている城南小学校(3か年)の研究実践を中心しながら、「学び合いを助ける教具としてのICT」の効果的な実践を随時市全体に広げることで、全小中学校の取り組みとする。	点検評価	<table border="1"> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を上回る</td><td>(達成率100%超)</td></tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり</td><td>(95~100%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</td><td>(80~94%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</td><td>(80%未満)</td></tr> </tbody> </table> <p>市教委学校訪問の授業参観では、学習支援ソフト(ロイロノート)を中心にICTの活用が小中学校とも進んできた。活用状況について、各校にアンケートをとったところ、昨年度より低学年から中学生まで様々な教科で使われ始めていることが分かった。また、県の「ICTを活用した授業改善支援事業」の推進校である城南小学校での授業公開に、就学前施設や全25校のICT活用推進委員や研究主任等約90人が参加した。ICT活用推進委員と城南小学校が協力し、小中学校の国語、算数・数学の全単元に、ICTを活用した場面を示した年間指導計画を作成し、令和5年度から活用する。</p> <p>1月に行われた大館市教職員研究実践会では、城南小や釧内小、下川沿中、田代中から、より実践的な使い方の発表があり、多くの教職員が熱心に聴講していた。ICTをおおだて型授業の中により効果的に活用するという「ICTの大館最適化」をこれからも崩さずに進めていきたい。電子黒板や教師用タブレットが不足していたが、来年度は設置台数が増えるとICTを活用した実践が増え、目標が達成できると思われる。</p>	<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)	<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)	課題等	<p>ICTを活用した授業改善支援事業(3年目)のモデル校となる城南小学校において授業公開を行い、授業参観や分科会での情報交換を通して、各校の活用が進むように支援していく。</p> <p>ICT支援員が各校を訪問しICT機器の操作支援を行うことで、デジタル教科書や学習支援ソフト(ロイロノート)、電子黒板の活用をさらに促進する。</p>	取組の方向性	学識経験者等意見	<p>ICTの活用は、これからを生きる児童生徒にとって必須の学力と思う。県の授業改善支援事業推進校である城南小学校の実践に加え、教職員研究実践発表会では、他小・中学校からも発表があるなど、先生方の関心は高い。</p> <p>台数不足が指摘されていた「電子黒板」について、令和5年度には数多くの導入が見込まれることは、学校にとってうれしいニュースである。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 繼続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
担当課(館)																						
② 「おおだて型授業(響学)」におけるICT活用スタイルの実践的研究	学校教育課 教育研究所																					
活動内容	全小中学校に整備された一人一台タブレット、校内Wi-Fi環境、電子黒板等を活用して、「共感的・協働的な学び合い」や「一人たりとも置き去りにしない授業」の実現に向けた調査研究を行う(2年次)。秋田県教育委員会委嘱の「ICTを活用した授業改善支援事業」の指定校となっている城南小学校(3か年)の研究実践を中心しながら、「学び合いを助ける教具としてのICT」の効果的な実践を随時市全体に広げることで、全小中学校の取り組みとする。																					
点検評価	<table border="1"> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を上回る</td><td>(達成率100%超)</td></tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり</td><td>(95~100%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</td><td>(80~94%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</td><td>(80%未満)</td></tr> </tbody> </table> <p>市教委学校訪問の授業参観では、学習支援ソフト(ロイロノート)を中心にICTの活用が小中学校とも進んできた。活用状況について、各校にアンケートをとったところ、昨年度より低学年から中学生まで様々な教科で使われ始めていることが分かった。また、県の「ICTを活用した授業改善支援事業」の推進校である城南小学校での授業公開に、就学前施設や全25校のICT活用推進委員や研究主任等約90人が参加した。ICT活用推進委員と城南小学校が協力し、小中学校の国語、算数・数学の全単元に、ICTを活用した場面を示した年間指導計画を作成し、令和5年度から活用する。</p> <p>1月に行われた大館市教職員研究実践会では、城南小や釧内小、下川沿中、田代中から、より実践的な使い方の発表があり、多くの教職員が熱心に聴講していた。ICTをおおだて型授業の中により効果的に活用するという「ICTの大館最適化」をこれからも崩さずに進めていきたい。電子黒板や教師用タブレットが不足していたが、来年度は設置台数が増えるとICTを活用した実践が増え、目標が達成できると思われる。</p>	<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)	<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)													
<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)																					
<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)																					
<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)																					
<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)																					
課題等	<p>ICTを活用した授業改善支援事業(3年目)のモデル校となる城南小学校において授業公開を行い、授業参観や分科会での情報交換を通して、各校の活用が進むように支援していく。</p> <p>ICT支援員が各校を訪問しICT機器の操作支援を行うことで、デジタル教科書や学習支援ソフト(ロイロノート)、電子黒板の活用をさらに促進する。</p>	取組の方向性																				
学識経験者等意見	<p>ICTの活用は、これからを生きる児童生徒にとって必須の学力と思う。県の授業改善支援事業推進校である城南小学校の実践に加え、教職員研究実践発表会では、他小・中学校からも発表があるなど、先生方の関心は高い。</p> <p>台数不足が指摘されていた「電子黒板」について、令和5年度には数多くの導入が見込まれることは、学校にとってうれしいニュースである。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 繼続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度																				

重点施策点検・評価表

2-4-1

基本目標																	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化																
重点施策																	
4	<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当課(館)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築する</td></tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>新学習指導要領の全面実施により、英語教育、道徳、プログラミング教育等のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。また、前述の推進委員会には、中学校英語科の教育専門監経験者を委員に委嘱し、英語教育の充実を図る。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </td> </tr> <tr> <td>教育課程の計画・報告の点検、学校訪問での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。 小学校外国語活動・外国語については、これまで、中学校との段差に課題があり、令和3年度に「小学校英語教育推進委員会」を設置し、中学校の英語科教諭も委員に交え、小・中の学習内容のつながりや授業の在り方を検討してきた。令和4年度は、秋田県学習状況調査児童生徒質問紙における「外国語の勉強は好きだ」の割合(秋田県平均比)が、小学校6年生で101.4、中学校1年生で106.3と小学校での意欲が継続され、段差解消の兆しが伺える。しかし、学習到達度検査においては、外国語活動から外国語の教科に移行する5年生の定着が全国比を下まわった。また、早期から英語に親しむ環境づくりとして、小学校英語教育推進アドバイザーが希望する園の年中・年長児への「英語で遊ぼう」(年1~5回程度)、全小学校1・2年生(3学期に2回)の外国語に親しむ活動を実施した。子どもたちの意欲的な姿と、異文化への順応力・吸収力に手応えを得ることができた。</td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学識経験者等意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table> </td></tr> </tbody> </table>	担当課(館)	① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>新学習指導要領の全面実施により、英語教育、道徳、プログラミング教育等のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。また、前述の推進委員会には、中学校英語科の教育専門監経験者を委員に委嘱し、英語教育の充実を図る。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </td> </tr> <tr> <td>教育課程の計画・報告の点検、学校訪問での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。 小学校外国語活動・外国語については、これまで、中学校との段差に課題があり、令和3年度に「小学校英語教育推進委員会」を設置し、中学校の英語科教諭も委員に交え、小・中の学習内容のつながりや授業の在り方を検討してきた。令和4年度は、秋田県学習状況調査児童生徒質問紙における「外国語の勉強は好きだ」の割合(秋田県平均比)が、小学校6年生で101.4、中学校1年生で106.3と小学校での意欲が継続され、段差解消の兆しが伺える。しかし、学習到達度検査においては、外国語活動から外国語の教科に移行する5年生の定着が全国比を下まわった。また、早期から英語に親しむ環境づくりとして、小学校英語教育推進アドバイザーが希望する園の年中・年長児への「英語で遊ぼう」(年1~5回程度)、全小学校1・2年生(3学期に2回)の外国語に親しむ活動を実施した。子どもたちの意欲的な姿と、異文化への順応力・吸収力に手応えを得ることができた。</td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学識経験者等意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	活動内容	新学習指導要領の全面実施により、英語教育、道徳、プログラミング教育等のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。また、前述の推進委員会には、中学校英語科の教育専門監経験者を委員に委嘱し、英語教育の充実を図る。	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	教育課程の計画・報告の点検、学校訪問での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。 小学校外国語活動・外国語については、これまで、中学校との段差に課題があり、令和3年度に「小学校英語教育推進委員会」を設置し、中学校の英語科教諭も委員に交え、小・中の学習内容のつながりや授業の在り方を検討してきた。令和4年度は、秋田県学習状況調査児童生徒質問紙における「外国語の勉強は好きだ」の割合(秋田県平均比)が、小学校6年生で101.4、中学校1年生で106.3と小学校での意欲が継続され、段差解消の兆しが伺える。しかし、学習到達度検査においては、外国語活動から外国語の教科に移行する5年生の定着が全国比を下まわった。また、早期から英語に親しむ環境づくりとして、小学校英語教育推進アドバイザーが希望する園の年中・年長児への「英語で遊ぼう」(年1~5回程度)、全小学校1・2年生(3学期に2回)の外国語に親しむ活動を実施した。子どもたちの意欲的な姿と、異文化への順応力・吸収力に手応えを得ることができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td> </tr> </tbody> </table>	取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。</td> </tr> </tbody> </table>	課題等	市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学識経験者等意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	学識経験者等意見	低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。
担当課(館)																	
① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築する																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動内容</th> <th>新学習指導要領の全面実施により、英語教育、道徳、プログラミング教育等のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。また、前述の推進委員会には、中学校英語科の教育専門監経験者を委員に委嘱し、英語教育の充実を図る。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </td> </tr> <tr> <td>教育課程の計画・報告の点検、学校訪問での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。 小学校外国語活動・外国語については、これまで、中学校との段差に課題があり、令和3年度に「小学校英語教育推進委員会」を設置し、中学校の英語科教諭も委員に交え、小・中の学習内容のつながりや授業の在り方を検討してきた。令和4年度は、秋田県学習状況調査児童生徒質問紙における「外国語の勉強は好きだ」の割合(秋田県平均比)が、小学校6年生で101.4、中学校1年生で106.3と小学校での意欲が継続され、段差解消の兆しが伺える。しかし、学習到達度検査においては、外国語活動から外国語の教科に移行する5年生の定着が全国比を下まわった。また、早期から英語に親しむ環境づくりとして、小学校英語教育推進アドバイザーが希望する園の年中・年長児への「英語で遊ぼう」(年1~5回程度)、全小学校1・2年生(3学期に2回)の外国語に親しむ活動を実施した。子どもたちの意欲的な姿と、異文化への順応力・吸収力に手応えを得ることができた。</td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学識経験者等意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	活動内容	新学習指導要領の全面実施により、英語教育、道徳、プログラミング教育等のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。また、前述の推進委員会には、中学校英語科の教育専門監経験者を委員に委嘱し、英語教育の充実を図る。	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	教育課程の計画・報告の点検、学校訪問での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。 小学校外国語活動・外国語については、これまで、中学校との段差に課題があり、令和3年度に「小学校英語教育推進委員会」を設置し、中学校の英語科教諭も委員に交え、小・中の学習内容のつながりや授業の在り方を検討してきた。令和4年度は、秋田県学習状況調査児童生徒質問紙における「外国語の勉強は好きだ」の割合(秋田県平均比)が、小学校6年生で101.4、中学校1年生で106.3と小学校での意欲が継続され、段差解消の兆しが伺える。しかし、学習到達度検査においては、外国語活動から外国語の教科に移行する5年生の定着が全国比を下まわった。また、早期から英語に親しむ環境づくりとして、小学校英語教育推進アドバイザーが希望する園の年中・年長児への「英語で遊ぼう」(年1~5回程度)、全小学校1・2年生(3学期に2回)の外国語に親しむ活動を実施した。子どもたちの意欲的な姿と、異文化への順応力・吸収力に手応えを得ることができた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td> </tr> </tbody> </table>	取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。</td> </tr> </tbody> </table>	課題等	市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学識経験者等意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	学識経験者等意見	低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。				
活動内容	新学習指導要領の全面実施により、英語教育、道徳、プログラミング教育等のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。また、前述の推進委員会には、中学校英語科の教育専門監経験者を委員に委嘱し、英語教育の充実を図る。																
<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)																	
教育課程の計画・報告の点検、学校訪問での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。 小学校外国語活動・外国語については、これまで、中学校との段差に課題があり、令和3年度に「小学校英語教育推進委員会」を設置し、中学校の英語科教諭も委員に交え、小・中の学習内容のつながりや授業の在り方を検討してきた。令和4年度は、秋田県学習状況調査児童生徒質問紙における「外国語の勉強は好きだ」の割合(秋田県平均比)が、小学校6年生で101.4、中学校1年生で106.3と小学校での意欲が継続され、段差解消の兆しが伺える。しかし、学習到達度検査においては、外国語活動から外国語の教科に移行する5年生の定着が全国比を下まわった。また、早期から英語に親しむ環境づくりとして、小学校英語教育推進アドバイザーが希望する園の年中・年長児への「英語で遊ぼう」(年1~5回程度)、全小学校1・2年生(3学期に2回)の外国語に親しむ活動を実施した。子どもたちの意欲的な姿と、異文化への順応力・吸収力に手応えを得ることができた。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>取組の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </td> </tr> </tbody> </table>	取組の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度															
取組の方向性																	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。</td> </tr> </tbody> </table>	課題等	市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。															
課題等																	
市「第2期大館市総合戦略(令和2年3月)」における「切れ目のない英語教育の環境整備」の2年目である。小学校英語教育推進委員会では高まりつつある意欲を「読む」「書く」の活動、知識の定着につなげよう、毎時間の評価の実施、大館版CAN-DOリストの作成に取り組む。また、小学校英語教育推進アドバイザーを中心に、就学前・小学校低学年における英語に親しむ活動・授業をカリキュラムに明示する。																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学識経験者等意見</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	学識経験者等意見	低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。															
学識経験者等意見																	
低年齢層の保護者の英語教育に対する期待は大きいものがある。昨年度の課題であった「小・中の接続」については、アンケート結果から段差解消の兆しが伺えるということから、取組の成果ととらえることができる。 小学校で活用する大館版CAN-DOリストの作成や学習到達度検査(CRT)の対策など課題もあるが、楽しく異文化を学ぶ学習機会として、英語教育を今後とも充実させていただきたい。																	

重点施策点検・評価表

2-4-2

基本目標										
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化									
重点施策										
4	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する	担当課(館)								
② 学校と行政の連携により、個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備		学校教育課 教育研究所								
活動内容	全校のエアコン稼働、コロナウイルス感染症防止のための備品等のスムーズな活用に向けての条件整備を進める。GIGAスクールについては、家庭でのオンライン授業の可能性を調査研究する。 教職員の働き方改革を推進するため、校務支援システムによる事務量の軽減、出退勤時間の管理、人的な資源活用(部活動指導員、学校サポートー等)の効果を検証しながら改善策を検討する。									
点検評価	<table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を上回る</td><td>(達成率100%超)</td></tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり</td><td>(95~100%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</td><td>(80~94%)</td></tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</td><td>(80%未満)</td></tr> </table> <p>昨年度から新型コロナウイルス感染症対策として稼働した教室のエアコンについて、運用マニュアルを改定し、適正かつ効果的な使用となるよう改善した。また、GIGAスクール構想の家庭でのオンライン授業はタブレット端末の持ち帰りについて、ICTを活用した授業改善支援事業の指定校となっている城南小学校での実現に向けて、他の自治体のセキュリティ対策や家庭のWi-Fi環境への支援などの情報収集を行った。 教職員の働き方改革に関しては、小中学校とも指導要録、通知表などのシステム化や出退勤管理が図られ、事務量の軽減等に繋がっている。また、人的な資源活用については、中学校部活動指導員6名を雇用し、教職員の負担軽減を図ったほか、休日の部活動については地域部活動推進事業を活用し、昨年度の吹奏楽部に加え、4校の運動部でも地域移行を進め教職員の負担軽減に努めた。</p>		<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)	<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)
<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)									
<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)									
<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)									
<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)									
課題等	電子黒板の整備数は学校間で格差が生じている。ICTを活用した授業を全校で推進するためには、電子黒板が必須であるため不足を解消していく。また、中学校部活動の地域移行は、受け入れ体制が整うには数年を要する。長期的に継続可能な体制整備のために関係者と協議を重ね、地域状況に合致した移行となるよう進めていく。									
学識経験者等意見	家庭でのオンラインを活用した授業の可能性については、いろいろな課題を洗い出し、実現に向けて検討いただきたい。また、中学校部活動の地域移行については、小学校のスポーツ少年団移行時と同様、さまざまな意見があると思う。 どのような形が生徒、学校、地域社会にとって望ましいのか、検討を加えながら進めていただきたい。									
		取組の方向性								
		<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度								

重点施策点検・評価表

3-1-1

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	① 達人講座の実施	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>地域のサークル等の講師(達人)が、小中学生(親子含む)を対象にボランティアで講座を開設し、21講座を実施する。</p>	
	<p>■ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>□ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p>	
	<p>点検評価</p> <p>昨年度同様、感染症対策のため実施できなかった講座もあったが、今年度新たに6講座(スペシャリストのお仕事体験、ゆかた着付け、そろばん、オンライン授業体験、けしごむはんこ、ポコアポコアート体験)を加え22講座を開設した。講座数は前年度より減ったものの、申込者数は増加し、コロナ禍前の令和元年度の402人を超えるものとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度: 9講座(申込者数287人)※感染症対策のため後期のみ開設 令和3年度: 25講座(申込者数437人、前年度より52%増) 令和4年度: 22講座(申込者数442人、前年度より 1%増) 	
	<p>課題等</p> <p>令和2年度から令和4年度まで、新型コロナ感染症対策のため実施できていない講座が複数あるため、再び実施できるよう講師と実施方法を検討する。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>良い活動だと思う。目標を上回っており、実績も増加している。楽しみにしている人もいると思う。リストを加除修正しながら継続していただきたい。</p>	

重点施策点検・評価表

3-1-2

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	② 人材リスト「おおだて人財名簿」の充実と活用	生涯学習課
活動内容	高等教育機関(大学、短大)や学校ボランティア、公民館等から新規人材を発掘し、特技や知識を持つ市民を「人財」として募集・登録し、学校や公民館などさまざまな学習活動の場での活用を促す環境の整備を図り、市内各所(小中学校25校、社会教育施設等17か所)に配置し、市ホームページも更新する。	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>人財名簿への新規登録はなし。 活動実績は53件あった。 令和4年度 登録50人 18団体 差し替え名簿を配置先へ送付するとともに、4月1日に市ホームページを更新した。</p>	
課題等	より広い周知をして登録件数増加や利活用の促進を図っていきたい。名簿の内容は、随時チェックしながら更新し、使いやすさを維持していく。 利用実績を明確にしていくため、仕組みづくりが課題となっている。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	新型コロナウイルスの影響が落ち着いてきたため名簿を更新し、人材名簿を充実させて継続していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-1-3

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)
	(③) 「大館市出前講座」の充実と活用	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>市民の自主的な学習活動を支援するため、市の制度や事業等について市職員が出向いて説明を行う「出前講座(65講座)」を実施し、利用件数150件、受講者数7,000人(延べ)を目指す。</p> <p>令和元年度58講座(実績:238件、14,779人)</p> <p>令和2年度66講座(実績:126件、7,717人)</p> <p>令和3年度65講座(実績:133件、4,038人)</p> <p>令和4年度65講座(実績:178件、5,212人)</p>	
	<p>点検評価</p> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>コロナ禍により、引き続き市民活動が全体的に自粛傾向であったことから、結果としては124件4,505人の受講にとどまり、件数、受講者数ともに前年度並みであった。</p> <p>メニュー講座として、「救急や防災に関する講座」、「ボッチャ体験」、「木育を体験しよう」の申込みが多かった。</p> <p>メニューにないものの担当課が受け入れた特別メニューの講座としては、「SDGsに関する講座」、「冬に向けた感染予防に関する講座」、「はちくんによる小中あいさつ運動」の3件であった。</p>	
	<p>課題等</p> <p>メニュー講座65講座のうち、利用は「救急や防災講座」、「ボッチャ体験」など28講座だったが、利用のない講座もあるので、市民ニーズにあったメニューの見直しとより一層の周知をしていきたい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>近年、全国的に水害や地震など災害が多く、「救急や防災に関する講座」、「SDGs」などタイムリーな講座が多い。</p> <p>今日の新聞でも掲載されていたが、より効果的なPRを行い継続していただきたい。</p> <p>法務局などの外部機関からの情報もあると効果的だと思う。</p>	

重点施策点検・評価表

3-1-4

基本目標											
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援										
重点施策											
1	ふるさとキャリア教育の理念に基づく「知の循環型社会」の形成に努める	担当課(館)									
<p>④ 公民館事業への青少年の参加促進</p> <table border="1"> <tr> <td>活動内容</td><td>各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全5回延べ70人、ラジオ体操開始・終了大会10団体100人他を予定。</td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>依然として、コロナ禍ではあるものの、感染対策などを講じて事業をできるだけ実施するというスタンスで取り組んだ。休日や夏・冬休みの小中学生を対象とした事業は、「将棋・囲碁教室」、「新春書初め」などのほか、地区公民館では「星空観望会」、「サケの放流事業」「カヌ一体験教室」など特色ある事業に取り組んだ。事業の中止はほとんどなく実施できた。 「わんぱくスクール 全8回、延べ115人」、「囲碁、将棋教室 各3日、延べ64人」、「ラジオ体操開始大会 13団体、約90人」、「ラジオ体操修了大会 11団体、約100人」</p> </td></tr> <tr> <td>課題等</td><td>今後も感染症対策を講じながら、小中学生が興味を持つようなイベントや活動内容を工夫しながら企画する努力を継続する。 「わんぱくスクール」や「キッズカレッジ」、「たしろ学舎」などの事業で実施した複数館合同での事業実施は、今後さらに必要となる。子どもにとって身近な存在の公民館を目指す。</td><td>取組の方向性</td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td>新型コロナウイルスは感染症法上の位置づけが5類に移行されるため、事業を継続しながらさらに上積みし、子どもたちにとって面白い公民館になるよう、知恵を絞ってほしい。</td><td> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p> </td></tr> </table>	活動内容	各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全5回延べ70人、ラジオ体操開始・終了大会10団体100人他を予定。	点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>依然として、コロナ禍ではあるものの、感染対策などを講じて事業をできるだけ実施するというスタンスで取り組んだ。休日や夏・冬休みの小中学生を対象とした事業は、「将棋・囲碁教室」、「新春書初め」などのほか、地区公民館では「星空観望会」、「サケの放流事業」「カヌ一体験教室」など特色ある事業に取り組んだ。事業の中止はほとんどなく実施できた。 「わんぱくスクール 全8回、延べ115人」、「囲碁、将棋教室 各3日、延べ64人」、「ラジオ体操開始大会 13団体、約90人」、「ラジオ体操修了大会 11団体、約100人」</p>	課題等	今後も感染症対策を講じながら、小中学生が興味を持つようなイベントや活動内容を工夫しながら企画する努力を継続する。 「わんぱくスクール」や「キッズカレッジ」、「たしろ学舎」などの事業で実施した複数館合同での事業実施は、今後さらに必要となる。子どもにとって身近な存在の公民館を目指す。	取組の方向性	学識経験者等意見	新型コロナウイルスは感染症法上の位置づけが5類に移行されるため、事業を継続しながらさらに上積みし、子どもたちにとって面白い公民館になるよう、知恵を絞ってほしい。	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>	中央公民館
活動内容	各公民館が、小・中・高校生を対象とした事業を学校休業日を利用して開催し、参加を促進する。既存の事業がマンネリにならないよう改善を加え、新規事業も企画・立案し、新規参加者が年々増えていくよう配慮する。わんぱくスクール全5回延べ70人、ラジオ体操開始・終了大会10団体100人他を予定。										
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>依然として、コロナ禍ではあるものの、感染対策などを講じて事業をできるだけ実施するというスタンスで取り組んだ。休日や夏・冬休みの小中学生を対象とした事業は、「将棋・囲碁教室」、「新春書初め」などのほか、地区公民館では「星空観望会」、「サケの放流事業」「カヌ一体験教室」など特色ある事業に取り組んだ。事業の中止はほとんどなく実施できた。 「わんぱくスクール 全8回、延べ115人」、「囲碁、将棋教室 各3日、延べ64人」、「ラジオ体操開始大会 13団体、約90人」、「ラジオ体操修了大会 11団体、約100人」</p>										
課題等	今後も感染症対策を講じながら、小中学生が興味を持つようなイベントや活動内容を工夫しながら企画する努力を継続する。 「わんぱくスクール」や「キッズカレッジ」、「たしろ学舎」などの事業で実施した複数館合同での事業実施は、今後さらに必要となる。子どもにとって身近な存在の公民館を目指す。	取組の方向性									
学識経験者等意見	新型コロナウイルスは感染症法上の位置づけが5類に移行されるため、事業を継続しながらさらに上積みし、子どもたちにとって面白い公民館になるよう、知恵を絞ってほしい。	<p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>									

重点施策点検・評価表

3-2-1

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
	① 学校支援活動事業の推進	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>市内の全小中学校を対象に、学校で必要とする活動と地域住民の知識と経験をマッチングさせ、地域の方々のボランティア派遣や地域の教育力を学校教育へ活用する等、地域ぐるみで子どもを育む環境整備を図るとともに、学校を核とした地域の活性化につなげる活動を支援する。 (地域協力者予定数:14, 269人)</p>	
	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)を配置し、地域と学校の連携・協働を図った。今年度の地域協力者数は13, 241人(上半期の感染対策による行事中止のため減)。</p> <p>①各校の特色ある授業・大館ふるさとキャリア教育の支援、クラブ活動やスキー教室等の学校行事における地域協力者のコーディネートによる教職員の負担軽減。</p> <p>②地域課題の解決に向けた活動として、児童・生徒による地域のクリーンアップ活動や防災活動、伝統芸能・郷土芸能の継承、福祉施設での活動など、さまざまな地域と学校の協働活動を推進した。</p> <p>③学校ホームページや学校報等により、児童・生徒の様子や地域協力者の活動状況を伝えることで地域協力者の意欲向上や新たな人材確保につなげた。</p>	
	<p>点検評価</p> <p>課題等</p> <p>学識経験者等意見</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 繼続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p> <p>地域コーディネーターの業務は、人のつながりが大事である。こういう人の活躍の場を含めて支援していただければ有難く、また、学校としても有難い。困った時にはコーディネーターに頼っていただけるような体制の構築が必要である。</p>

重点施策点検・評価表

3-2-2

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
	② 家庭教育の充実	生涯学習課
活動内容	家庭教育推進事業の一環として、市内幼稚園、保育園、小中学校を対象に「子育て講座(40講座)」を開催する。また、「おしゃべりひろばひだまり」は家庭教育支援チームと連携し、子育て中の親を対象に育児の悩みや不安の解消を図る。	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>○「おしゃべりひろばひだまり」 計画していた全12回講座を全て開催でき、参加者は託児を含め221人となつた。</p> <p>○「子育て講座」 昨年度は感染症の影響により講座を中止する団体が多く、37講座の開講となつたが、今年度は40団体全て開催できた。参加者数は前年度より4人増の計1,546人。</p> <p>○「親育ち！家庭教育支援ネットワークづくり事業」 ・適応指導「おおとり教室」ふれあいお楽しみ会(木育体験、絵馬作り&防災講座)…参加者26人、ボランティア7人 ・助産院イスキア菅原光子先生による孫育て講座…計3回実施 参加者計30人 ・学校、家庭、地域連携総合推進事業担当者スキルアップ研修会「地域全体で家庭教育を支え続けるために」…会場参加者42人 ・特別支援学級でのニュースポーツ等体験…計3回実施 参加者計27人 ・「Let' Go ! 木育ひろば」…計13回実施 参加者計1,139人</p>	
課題等	「おしゃべりひろばひだまり」は感染症の影響でカフェタイムが取れない回もあった。来年度は対策を講じつつ保護者が相談できる場を多く作りたい。 スキルアップ研修会は児童民生委員等周知範囲を広げ、当日参加できない方は動画視聴可能にしたところ申込者が倍増した。今後も広く周知し参加者を増やしたい。	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等意見	子育て講座や家庭教育は大事にしなければならないことである。 横のつながりが大切で、民生委員の参加について、範囲を広げたことは非常によいことと思う。普段から親しみをもって接することが大事である。	

重点施策点検・評価表

3-2-3

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援
重点施策	
2	<p>「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する</p> <p>③ 音楽療法士派遣事業</p>
	<p>活動内容</p> <p>継続事業として、市内幼稚園、保育園、小中学校からの派遣依頼を受け、自閉症気味な子や発達が気になる子、特別支援学級在籍児童に対し音楽療法を実施し、児童の情緒の安定を図る。 事業計画:全22回予定。</p>
	<p>点検評価</p> <p>■ 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>派遣要請のあった市内の小中学校の特別支援学級や、気になる子を含めた保育園児を対象に23回の派遣を実施した。(小学校13回、中学校2回、保育園8回) 先生と音楽療法士が協力することで、ドラムセットやDJセットなどさまざまな楽器を用意し、一緒に演奏や交流することを楽しみ、精神的な安定とコミュニケーション能力の向上に努めることができた。</p>
	<p>課題等</p> <p>上半期は新型コロナウイルス感染症のため、学年閉鎖等による延期や中止が何度かあったが、下半期は児童・生徒からの要望などにより一気に申請数が増え予定回数を超える結果となつた。 児童生徒のリピート率が高く、今後も音楽療法士の派遣事業は継続していきたい。また、講師の負担を減らすため、開催時期が集中しないよう調整していきたい。</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>派遣ニーズが多く、支援学校の要請が多い。 講師の先生は多忙のようであるが、開催時期を調整しながら、継続していただきたい。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>

重点施策点検・評価表

3-2-4

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
	④ 青少年健全育成活動の充実	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>青少年健全育成推進方針を策定し、関係機関と連携を図りながらさまざまな活動を実施し、青少年健全育成に対する市民の意識高揚と青少年健全育成のための環境整備を図る。(動員目標数98人)</p>	
	<p>■ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>□ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p>	
	<p>点検評価</p> <p>学校及び青少年関連団体・機関等による青少年問題協議会を開催し、青少年健全育成推進方針の策定や情報共有・事業連携を図った。</p> <p>また、7月2日に中央公民館を会場に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催し、大館曲げわっぱ太鼓によるオープニング公演や、内閣総理大臣メッセージの伝達、秋田法務少年支援センター職員による特別講話を実施し、青少年の非行・犯罪防止と、社会を明るくする運動の啓発に努めた。</p> <p>(参考者数111人)</p>	
	<p>課題等</p> <p>中央公民館を会場とするため、密になりすぎない程度に人数を制限し、今後も7月第1土曜日に「青少年を非行から守る市民のつどい」を開催したい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 繼続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	学識経験者等意見	開催年数が長く、地道な活動を続けていることに頭が下がる思いである。こういった活躍の場面があれば、関係者のみなさんの励みになると思う。

重点施策点検・評価表

3-2-5

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
(5) 少年相談センターの活動の充実		生涯学習課
活動内容	<p>青少年が抱える悩みや問題を解決するための相談活動や指導員による巡回活動のほか、関係機関・団体・学校等と連携したさまざまな活動を行うことにより、青少年の健全育成を図る。(少年指導員の年間計画延べ200人)</p>	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>青少年や保護者が抱えるさまざまな問題に対応できるよう、電話や面接による相談活動を実施するとともに、教育研究所、おおとり教室、子ども課等の青少年関連機関との連携を図りながら、問題解決に努めた。また、少年指導員28人により、市内全コンビニ店への子どもの見守り支援活動や、街頭パトロール、生徒指導主事協議会との合同巡回などを通して、青少年の健全育成に努めた。 (少年指導員の年間活動延べ197人)</p>	
課題等	<p>令和4年度の相談件数は、延べ322件と過去最も多い相談件数となっている。 また、高齢となっている職員の後継が見つからず、人材確保の面が課題となっている。</p>	
学識経験者等意見	<p>相談件数が多く、職員の方には難儀をかけているが、相談内容には継続した案件や複雑な案件があるため、相談員の人選に関しては、今後の課題である。</p>	
	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>	

重点施策点検・評価表

3-2-6

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
	⑥ 社会教育委員の活動の充実	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>生涯学習推進計画や社会教育推進計画等、社会教育推進のための基本方針や重点施策を策定し、教育委員会点検・評価に対する必要な意見・提言を行い、社会教育活動の推進を図る。また、学校訪問・研修会等の開催を周知し、40人以上(延べ)の参加を目指す。</p>	
	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p>	
	<p>点検評価</p> <p>北教育事務所主催の学校訪問は6回(12校)、市教育研究所主催の授業見学は5回開催された。</p> <p>北鹿地区社会教育委員研修会は、令和4年11月15日に鹿角市「大湯ストーンサークル館」において開催された。本市からは阿部委員長ほか4人が参加し、他市町の社会教育関係委員と「地域とともに歩む社会教育の在り方」について意見交換を行った。</p> <p>そのほか、当課主催の講座や研修会など計18回の案内に延べ50人が参加し、積極的に活動することができた。学校訪問では各委員から各校の取り組みへの意見、助言のほか推薦母体からの協力の申し出など、学校を取り巻く環境の向上に対する熱意を伝えることができた。各種活動からの経験を生かし、社会教育・生涯学習の重点施策や事務事業の点検・評価について協議し、必要な提言を行っている。</p> <p>令和2年度 訪問等 延べ参加人数 6人(3回) 令和3年度 訪問等 延べ参加人数 58人(16回) 令和4年度 訪問等 延べ参加人数 50人(18回)</p>	
	<p>課題等</p> <p>ふるさとキャリア教育や学校と地域のつながりの中に社会教育委員として関わり、市民版ふるさとキャリア教育の推進に向けて見える活動を展開していきたい。また、活動を通して得たものを第7次大館市社会教育中期計画の実現と第8次大館市社会教育中期計画(令和6年度改定)に反映させる。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 繼続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>目で見ることで、子どもたちの様子がわかる。学校関係者だと偏った見方となるかもしれないが、社会教育委員として、いろいろな視点で学校を見るのがよいと思う。ぜひ継続していただきたい。</p>	

重点施策点検・評価表

3-2-7

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
	(7) 生涯学習推進体制の充実	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>生涯学習に関する市民の意見・要望を反映させるため、関係相互団体と連携し、生涯学習協議会において協議するとともに、地域において学習活動を奨励するため、生涯学習奨励員の自己研鑽と活動の充実を図り、社会教育主事を養成しながらその組織化を目指す。</p>	
	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>生涯学習推進協議会では、7月に幹事会(書面協議)、8月23日に協議会を開催した。令和4年度生涯学習推進計画、社会教育推進計画を案件とし、各委員からさまざまな意見や助言等が出された。今後、各種生涯学習事業の展開・改善に役立てていく。</p> <p>また、生涯学習奨励員については、生涯学習フェスティバルへの参加及び協力や県及び北鹿地区の総会、各種研修会への参加などの活動を行った。</p>	
	<p>課題等</p> <p>「市民版ふるさとキャリア教育」を具現化する位置づけであるポータルサイト「大館学び大学」が昨年の4年月にグランドオープンした。生涯学習推進本部としてさらなる庁内連携を進めるとともに、今年度の協議会での委員の意見を反映できるようにしていきたい。</p> <p>生涯学習奨励員には、学習した成果として、地域住民が各種行事や学習会などに参加できるよう、学習情報の収集と提供ができるようにしたい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 繼続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	学識経験者等意見	<p>大館学び大学との関連性、つながりを強くしていただきたい。</p> <p>学習した成果を地域で生かすことは、奨励員の方もやりがいを感じるのではないかと思う。</p>

重点施策点検・評価表

3-2-8

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
	(8) 高齢化社会に対応した生涯学習の充実	中央公民館
活動内容	公民館サークル活動等の学習成果を生かす場の拡充や高齢者の豊かな体験・知識・技術・特技を生かす場を充実させるため、子どもとの世代間交流も行う。中央公民館老壮大学110人全9回、各地区公民館高齢者学級開催(11館)。	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>定年延長などにより、60歳代でも働いている人が増えているため、事業参加者の高齢化が進むとともに、参加者数の減少がみられる。 健康寿命の向上や生き生きとした生活を過ごすための魅力ある講座の提供も必要であり、何より市民の興味を引く内容の事業展開が必要だった。 今年度実績:老壮大学 全9回学生110人(前年度全10回116人) ほか全地区公民館(11館)でも高齢者学級を実施 新春書初め交流会 25人(同23人)中央公民館 " 20人(同25人)比内公民館</p>	
課題等	近年は60歳を過ぎても就労している方が多くなっている。 今後は、そういう方たち向けに夜間や休日に事業を実施するなどの工夫が必要である。また、健康寿命の向上や生き生きとした生活を過ごすための魅力ある講座の提供も必要と考える。	取組の方向性
学識経験者等意見	参加人数を気にせずに、参加者からのニーズを的確に捉えてメニューを考えいくとともに、少しずつでもよいので、講座内容が魅力あるものになるよう進めていただきたい。	<p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>

重点施策点検・評価表

3-2-9

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)
	(⑨) 大館版リカレント教育事業の展開	
	<p>活動内容</p> <p>人生100年時代に対応して、学び直しに向けた環境作りを推進する。 (地方創生推進交付金事業)令和2年度から4年度までの3年間事業(単年度申請による3年間事業)</p>	
	<p>点検評価</p> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>働く学部ではオリジナル講座を32回、オリジナル特別講座を1回、グランドオープン記念フェスタ(2日間)を開催した。受講者はオリジナル講座では1回に4人から10人が受講し、全体として延べ186人が受講した。 本事業へ企業版ふるさと納税による寄附があったことから特別講座を開催し、102人が受講した。記念フェスタには企業10社16人が参加し、83人の市民が参加した。教育学部ではサイト内の各学校紹介を学校教育課と連携して作成し、3月に公開されている。教育視察の受け入れフォームを掲載し、申し込みが学校教育課へ送信される流れができた。</p>	
	<p>課題等</p> <p>年度後半は教育学部の学校紹介サイト構築に業務の負担割合が増加し、オリジナル講座の開催が少なくなったことから、他業務に影響されない定期的な講座開催が必要である。 リピーターがいるものの、受講者は限定的になっていることから、より周知を強く広く行いながら、市民ニーズをとらえ、講座へ反映させていく必要がある。企業連携によるつながりを構築し、学び大学を通じた企業と市民の学びの場を構築していく。</p>	
	<p>学識経験者等意見</p> <p>継続性のある事業を展開することにより、地域の誇りにもなるため、ますます広がっていくことが期待されている。 大学と企業のつながりを作りながら、今後も講座の充実をしていただきたい。</p>	

重点施策点検・評価表

3-2-10

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
2	「未来大館市民」を育成するための社会的連携態勢を構築する	担当課(館)	
(10) 障害者のための生涯学習の推進		生涯学習課	
活動内容	<p>障害者施設との連携による障害者の生涯学習の場として講座等を実施するとともに持続可能な活動の実践研究を行う。</p>		
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>文部科学省より事業2年目として受託し、生涯学習連携協議会を3回、生涯学習講座を7回、ボランティア養成講座を2回開催した。(ボランティアはコロナにより1回中止) 連携協議会に新たに2高校、2施設を加え、19団体による連携の輪ができた。第3回連携協議会では福祉部門との事業連携の可能性がでてきた。 昨年度中止となった比内支援学校青年学級を中央公民館を会場に開催できたことが成果としては大きい。また、11月のおうちパン講座からは連携協議会の委員が講座見学や参加体験しており、より本事業への理解や協力が進んできている。 講座全体の参加人数について、生涯学習講座は述べ181人が参加し、うち障害者は54人の参加であった。ボランティア養成講座は33人が参加し、アンケート調査では障害者との交流を求める声が多数あった。また、コロナ禍で講座をアーカイブ配信するなど実験的な取り組みも行った。</p>		
課題等	<p>今年度の成果や参加者の声、連携協議会での意見を次年度の事業へ反映させて、生涯学習講座やボランティア養成講座を実施していく。</p> <p>講座の中に数種類を盛り込み、参加した障害者が選択して参加する取り組みや在学中からの交流を図り、学校卒業後のつながり作りを支援していくことで、社会教育施設を活用した生涯学習の場の形成を行っていく。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>	
学識経験者等意見	<p>特別支援学校は、出口の部分が難しいため、人材育成も含めて必要である。福祉関係施設と連携し、今後も継続しながら充実させていただきたい。</p>		

重点施策点検・評価表

3-3-1

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
3	<p>高校生や大学生による「街づくり活動」等を支援する</p> <p>① 高校生・青年層対象の生涯学習ボランティア養成講座の実施</p>	
活動内容	<p>高校生や若い世代に公民館活動の紹介と生涯学習ボランティア活動を体験してもらい、公民館の積極的な活用を促進する。「高校生まちづくり会議HACHI」の活動を継続して実施するとともに、昨年は活動事例を紹介したり、他団体とのコラボした事業も行ったので、今後も取り組んでいきたい。また、各公民館事業に中学生、高校生、大学生のボランティアを活用し、公民館活動に積極的に参加してもらう。(11館)</p>	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>「HACHI」のメンバーは全26人。参加校は全て鳳鳴高校生となり、メインとなる「ハチワイン」を開催することができた。「おおだて巡り」では高校生の希望により市内各所を巡ったほか、交流推進課の出前講座を受講した。</p> <p>生涯学習フェスティバルでは、昨年度中止となった「児童との交流コーナー」を実施した。地元大学とのタイアップ事業は、コロナウイルス感染症の影響で進めることができなかったが、地区公民館においては、文化祭に作品の展示や、舞台での発表などで参加してもらった。</p> <p>今年度実績:活動回数 延べ16回135人(前年度17回176人)で目標どおり。</p>	
課題等	<p>「HACHI」のメンバーは鳳鳴高校生のみのため、他の2校の生徒に呼び掛けるとともに参加を促したい。また、コロナ禍によりできなかった大学との連携については、事業の内容や連携の在り方の検討が必要である。</p> <p>高校生が描く大館市の未来像を作成してもらうことも検討したい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等意見	高校が3校しかない中で、メンバーとして3高校の生徒がいてくれた方が望ましく、肩の凝らないメニューで参画してもらわればと思う。また、HACHIの地道な活動を続けていれば、いずれ花が咲き、OB・OGも大館市をよくしたいと考えるようになると思う。	

重点施策点検・評価表

3-4-1

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
4	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)
① 「生涯学習フェスティバル」の実施		生涯学習課
活動内容	社会教育施設、各種機関、団体等に協賛・参加を呼びかけ、生涯学習に関する実践活動の発表の場や理解する機会を提供し、市民一人ひとりの生涯学習への意欲を高める。メイン開催日(2日間)の会場となる中央公民館の来場者数目標を2,000人とする。	
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	9月、10月を生涯学習推進月間として、栗盛記念図書館、ほくしか鹿鳴ホール、北地区コミュニティセンターなど、各機関、団体等による協賛イベントが開催された。延べ参加・入場者数は8,250人。 9月24日、25日の中央公民館会場では、新型コロナウイルス感染症対策のためサークル協議会による食堂開設は見送ったが、概ね通常どおり開催することができた。 木育キャラバンをはじめ、中央公民館サークル協議会、大館市発明協会、教育研究所等による作品展示のほか、大館桜高等学校生徒によるものづくり体験など、生涯学習の周知と実践活動発表の機会とした。来館者数が1,748人と目標をやや下回った。
課題等	今後の感染状況次第によっては、サークル協議会の食堂開設も含めた通常開催を検討していく。また、行事・イベントが重複しないよう庁内や関係団体などと調整し開催する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 繼続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	早めに周知し、PRしていただきたい。 新型コロナウイルスの制限が感染症法上の位置づけが5類に移行されるため、イベントに参加する関係者が、今年はやりがいを感じる場面になると期待している。	

重点施策点検・評価表

3-4-2

基本目標	
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援
重点施策	
4	<p>「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する</p> <p>② 「大学公開講座」の実施</p>
活動内容	<p>市民の多様化・高度化した学習要望に応えるため、地域の高等教育機関との連携による公開講座を2回開催する。 実施校:秋田職業能力開発短期大学校、秋田看護福祉大学の各校1回</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>秋田看護福祉大学の「大学公開講座」は、9月29日、30日の2日間に開催し、血圧、健康をテーマにした講義を実施した。受講者数は延べ69人。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開市民講座」は、生涯学習強調月間である10月中に3回開催し、同大学の教授・講師陣から三次元CAD、アルコールストーブ、量子力学をテーマに講義を実施した。受講者数は延べ34人。</p>
課題等	<p>秋田看護福祉大学の「大学公開講座」について、コロナ禍の中、大学を訪れての公開講座は難しかったため、中央公民館に場所を変更し開催した。以降は、開催場所の検討が必要。 秋田職業能力開発短期大学校の「大学校公開講座」は、全体的に少し難しい内容となる傾向にあるが、今後も大学校による専門分野の講座という特色を生かし、継続していきたい。</p>
学識経験者等意見	<p>大学と大学校の特色や強みを生かし、実益を兼ねて参加者が楽しみながら学ぶことができればよいと思う。何を教材にするのかが大事である。</p>
	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>

重点施策点検・評価表

3-4-3

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
4	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)	
③ 地区住民や関係団体との連携強化 <table border="1" data-bbox="266 467 1454 765"> <tr> <td>活動内容</td><td>地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。</td></tr> </table>	活動内容	地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。	中央公民館
活動内容	地域コミュニティ活動を支えるため、関係団体・関係機関と情報交換を行うとともに、相互支援の体制を強化する。また、その活動の様子を関係団体等に紹介することで連携を強化する。特に東日本大震災以降は避難所としての機能の強化がより一層期待され、地区住民との連携強化が不可欠であるため、より良い協力関係を築いていく。		
点検評価	□ 目標を上回る (達成率100%超) ■ 目標どおり (95~100%) □ 目標をやや下回る (80~94%) □ 目標を大幅に下回る (80%未満)	<p>地区公民館では、運動会やスポーツ大会、文化祭などの行事を地元町内会や婦人会などと協力して行っているほか、他事業にも地域の団体の意見を反映させている。また、消防署や警察署、危機管理課の出前講座を活用した防災、防犯講座に地域ぐるみで取り組むなどして、関係機関とも連携を図っている。</p> <p>今年度は、コロナ禍と8月の大雨災害で市総合防災訓練が中止なった。各公民館の避難所部屋割・経路図と避難所用物品一覧表の作成を行い、誰でもわかるように準備を進めた。また、公民館や学校、町内会などと共に避難訓練を実施している。</p>	
	公民館は、地域コミュニティの拠点であり、地域活動の支援はもちろんのこと、災害時の避難所として位置付けられている。少ない職員数で避難所として機能するためには、地域住民との連携は欠くことができない。		
課題等	今後もより良い協力関係を築くよう努力し、有事における地区災害対策本部としての役割を想定した訓練を実施していく。	取組の方向性	
		<input checked="" type="checkbox"/> 繼続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	
学識経験者等意見	災害があると、気持がめいることと思うが、安心・安全からスタートさせ、住民のコミュニティづくりをバックアップしていくには、公民館の役割が重要である。		

重点施策点検・評価表

3-4-4

基本目標			
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援		
重点施策			
4	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)	
	(④ 地域コミュニティづくりに向けた支援体制の強化	中央公民館	
	活動内容	地域のコミュニティ活動の拠点となっている、地区公民館及び分館等の修繕等施設整備を進めていく。	
	点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>駿河内公民館と花岡公民館の大規模改修が実施される見通しがたった。今後も地元の意見・要望を聞きながら、計画的に整備を進めていきたい。 今年度は新型コロナウィルス対策事業として、中央公民館ほか5公民館にエアコンの設置を行った。年次計画に基づきストーブ、AEDなど備品の更新を実施することで側面からの支援も行った。</p>	
	課題等	<p>地区公民館分館は15施設あるが、老朽施設が多く、計画的に整備しても長期に渡ることからその間に突発的な修繕が日々発生する。また、建物以外でもストーブやエアコンの老朽化が進み、故障の都度修繕で対応しているが、計画的に更新する必要がある。</p> <p>地区住民の生涯学習の拠点として機能するため、限りある財源の中で優先順位を適切に判断し、予算確保の努力を継続する。</p>	取組の方向性
	学識経験者等意見	1年に1館づつの大修繕を行っても15年がかかる。しかし、いずれ何とかしていかないとならないため、優先順位をつけて1歩1歩進めてほしい。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度

重点施策点検・評価表

3-4-5

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
4	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)
(5) 公民館事業の充実と参加促進		中央公民館
活動内容	<p>公民館の各種事業の内容を充実させ、魅力ある講座を開催する。さらに参加者の動向を見ながらレベルアップを図ることで、活発な公民館活動を展開する。また、既存の事業で参加者の少ない事業でも楽しみに来ている高齢者がいるため、存続できるようにしていく。</p>	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>各事業の実施後、参加者から事業内容に関する意見や要望などアンケートを取り集約している。地区公民館では、町内会や関係団体との会合等で常に意見要望を出してもらい、今後の事業に反映するよう努めている。今年度もコロナ禍による事業縮小など制約を受けながらではあるが、地区公民館では二井田公民館の「地区の過去を知る映像観賞会」の新規開催や恒例の田代公民館「米代川川下りカヌー体験」をドローン撮影してYouTube公開するなど工夫を凝らして事業を展開した。</p>	
課題等	<p>地域住民のニーズを把握しながら事業の見直し・改善を進める必要がある。そのため、必要に応じてNPO団体や県・市の出前講座、企業のCRS活動(社会貢献)を活用して事業を充実させる。また、矢立公民館と釈迦内公民館による地区歴史研究会をつないだ羽州街道勉強会のように、複数の公民館共同による事業をさらに進め、地域を超えた新たな人間関係を形成したい。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等意見	<p>アイデアを拾い集め、事業を促進していかなければならない。</p> <p>また、他市町村を参考にアイデアをもらいながら、刺激になるような事業を各公民館にも拡大していただきたい。</p>	

重点施策点検・評価表

3-4-6

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
4	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)
	(⑥) 放課後児童健全育成事業及び放課後子ども教室推進事業並びにわくわく土曜教室推進事業の実施	生涯学習課
	<p>放課後児童を対象として、「安全・安心」を第一に充実した放課後を過ごせる場を提供する。さらに、土曜日等の支援として体験活動や学習機会を提供する。</p> <p>活動内容</p> <p>月1回の定例会を実施する。 各施設の横のつながりを図るため、クラブ対抗の大会(ドッジボール、カルタ)を開催する。</p>	
	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p>	
	<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響のため、各児童クラブにおいて行事やイベントの開催を自粛及び規模縮小することとなつたが、感染症対策に留意しながら工夫して季節の行事やイベントを開催し、児童に対して放課後の体験活動を提供することができた。</p> <p>直営全体でのドッジボール大会は感染症拡大のため直前で中止となつたが、カルタ大会については昨年度も開催した各クラブで行う予選に加え、3年ぶりにクラブ対抗で行う本選も開催することができた。</p> <p>毎月1回の定例会については感染症対策を講じて開催し、昨年度は2回の開催だった研修会も、支援員より希望のあった救命講座を加え計3回実施した。</p>	
	<p>今年度開催できなかつたドッジボール交流会を開催できるよう、実施方法を再検討する。</p> <p>国の新・放課後子ども総合プランによる高学年児童の受入れについては、施設設備や面積要件、三密を避ける対策等クリアすべき事案を整理しつつ、児童数の減少とも結びつけながら図っていく必要がある。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
	<p>放課後児童クラブやわくわく土曜教室などは親の関心が高く、学校の枠を離れたネットワークがあるため、親同士の情報交換ができている。</p> <p>職員も異動させながら、場所によって違いがないように放課後児童クラブの刷新を図っていただきたい。</p>	

重点施策点検・評価表

3-4-7

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
4	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)
	(7) 「大館ふるさとカルタ」の普及とカルタ大会の開催	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>カルタを普及させるとともに、カルタ大会を開催することにより、カルタの読み札や絵札を通して、ふるさとの歴史を学び、郷土愛を育む機会を作る。カルタ大会の運営に高校生ボランティア(目標5人)を募り、審判・読み手の育成も図る。</p>	
	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p>	<p>令和元年度、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中央公民館で開催していた代表者による本選は中止し、各児童クラブごとの開催にしていたが、今年度は保護者による送迎や観覧をなくし、参加児童数を制限することで3年ぶりに本選を実施することができた。</p> <p>事前に各クラブで行った予選や本選のための練習では、読み札を暗記した児童が読み手を務め、大会終了後は予選や本選実施後に行った報告会の影響により、本選に参加していない児童や高学年生も大館ふるさとカルタに関心を持ち、クラブの自由時間に遊ぶ姿もみられ、普及の一助を担えたものと考える。</p>
	<p>課題等</p> <p>一部のクラブで本選への参加を希望する児童がおらず、不参加となつた学年もあった。カルタ大会を今後も継続して開催していくとともに、大会の時期だけではなく、児童クラブにおいて日頃から大館ふるさとカルタに親しめるよう新たな取り組みを見い出したい。また、本選での高校生ボランティアは1名のみの参加であり、開催時期やボランティア募集方法に関して再検討する必要がある。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	学識経験者等意見	ふるさと学習にも直結するため、どんどん実施していただき、ふるさとの歴史を学び郷土愛を育む機会を作っていただきたい。

重点施策点検・評価表

3-4-8

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
4	「ふるさと学習」の機会を積極的に提供し、地域を誇れる素地を醸成する	担当課(館)
	⑧ 木育事業の実施	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>移動型木育ひろばを展開する。市民交流センターの木育空間を利用した乳幼児から高齢者までの世代間交流の機会創出を図る。</p>	
	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95~100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p>	
	<p>前年度に引き続き移動型木育ひろば「Let' Go ! 木育ひろば」を保育園、小学校、支援学校など11か所で計13回実施し、幼児から高齢者まで延べ1,139人が木のおもちゃに触れながら楽しい時間を過ごした。</p> <p>今年度で4回目となった移動型おもちゃ美術館「木育キャラバン」については、昨年度感染症の影響により人数と時間制限を設けたが、今年度は消毒を徹底し、制限を設けずに開催することができた。2日間で延べ1,748人の来場があり、多くの子育て中の親子が全国各地の選りすぐりの木のおもちゃと出会い、木の感触や香りを感じながら楽しい時間を過ごし、自然環境の保全や木材の良さを学ぶことができた。</p> <p>また、開催にあたり市内の木育インストラクター21人、高校生19人にもボランティアとして協力いただき、世代間交流の場にもなった。</p>	
	<p>より多くの市民が木に触れる機会を創出するため、木育イベントやワークショップを開催し、木の良さや自然環境の保全を周知していく。</p> <p>秋田杉をはじめとする市内及び県内の木や自然についても、木育インストラクターによるお話やイベントを通して周知していく。</p>	<p>取組の方向性</p> <p>■ 繼続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>
	楽しめる活動のイメージがあるので、ぜひ継続していただき、自然環境の保全や木材のよさを学ぶ機会の場を創出していいいただきたい。	
	学識経験者等意見	

重点施策点検・評価表

3-5-1

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
5	「生涯読書」活動を推奨し、その推進と拡充に努める	担当課(館)
	① 図書館運営に関する進行管理	生涯学習課
活動内容	指定管理制度による図書館運営について、指定管理者の提案書に基づく適正な運営に対する必要な支援と指導を行い、図書館サービスの向上を図り、「生涯読書」活動を推進する。	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>大館市図書館協議会からの提言に沿いながら指定管理者との協議を行い、市広報誌にQRコードを掲載して蔵書検索と予約を可能とした読書啓発活動を推進している。</p> <p>感染防止対策を講じながら、新規事業として園児を対象とした絵本の読み聞かせ会、小中学生を対象とした「真夏の怪談会」など、特色あるイベントを開催し、利用者の増加につながるよう努めている。</p> <p>読書活動の推進を図るため、第3期大館市読書推進計画の検証、読書バリアフリー法の制定、社会状況の変化を踏まえ、指定管理者との協議を行い、大館市図書館協議会委員の意見・提言を反映した第4期大館市読書推進計画を策定した。</p>	
課題等	「読書バリアフリー法」の制定、社会情勢の変化を踏まえながら、読書啓発活動と情報提供、読書環境の整備、情報発信を充実させ、さらに魅力ある市民に親しまれる図書館運営ができるよう、指定管理者と十分協議しながら支援していく。	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等意見	計画を作成することにより課題が整理できる。 指定管理者と連携し、図書館を運営していただきたい。	

重点施策点検・評価表

3-6-1

基本目標		
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援	
重点施策		
6	伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する	担当課(館)
	① 芸術文化に関する事業の積極的な周知・活用	生涯学習課
	<p>活動内容</p> <p>文化庁などが所管する各種事業等を関係団体や文化施設・学校等に積極的に周知、活用することにより、地域における芸術文化体験の機会を提供する。</p>	
	<p>点検評価</p> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>市内芸術文化連盟・協会等に対する秋田県芸術文化振興基金やニッセイ財団等による助成事業の周知のほか、小中学校には子どもたちが質の高い芸術活動を身近に感じられる機会として、文化庁「文化芸術による子供の育成事業(巡回公演事業・芸術家の派遣事業)」、「子供のための文化芸術鑑賞・体験支援事業」等の周知を行った。令和4年度は新型コロナの影響もあったが2校が実施。令和5年度は3校が申請している。</p>	
	<p>課題等</p> <p>「あきた子どもの文化体験促進事業」や「秋田県青少年劇場」など、学校等が活用しやすい事業について、民間、行政を問わず情報提供に努めていく。文化庁補助事業は、6年目として関係団体と連携しながら実施予定。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
	学識経験者等意見	子どもたちが、本物の文化芸術に触れるよい機会である。継続してバックアップしていただきたい。

重点施策点検・評価表

3-6-2

基本目標									
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援								
重点施策									
6	<p>伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する</p> <p>② 郷土芸能保存協会等との協働</p> <table border="1"> <tr> <td>活動内容</td><td>子どもから大人まで参加できる大館市伝統文化親子教室事業「未来へつなごう 大館市の伝統文化」を開催し、伝統芸能の体験の場を作るとともに、それらを通じさまざまな形の交流を図る。また、教職員を対象とした伝統芸能の体験の場を設ける。</td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>文化庁より5年目となる当該事業を受託し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、8月3日に「大館市伝統文化親子教室～教職員のための伝統文化の体験会～」を開催した。今年度は、新たに将棋講座を加え、書道体験、茶道体験、華道体験を実施し、参加者は46人であった。</p> <p>小中学生による郷土芸能発表会は、ほくしか鹿鳴ホールを会場に11月23日に開催した。出演団体は8団体(小学校3校、中学校2校、3団体)、出演者124人であった。発表会の映像は、YouTubeを利用して配信することで、次世代へ残す記録資料にもなり、郷土芸能の保存・継承・発展につながることが見込まれる。</p> </td></tr> <tr> <td>課題等</td><td>少子高齢化により郷土芸能を継承する地域の人材の確保が困難な状況となっている。加えて、学校統合により地域の歴史や伝統文化を保存・継承・発展させていくことが困難になっている状況も生まれている。各小中学校において、地域の自然・文化に触れる体験や地域の人々との交流など、地域の特色・資源を生かした教育活動を進めることにより、郷土を愛し、地域で活躍する「未来大館市民」の育成を図りたい。</td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td>伝統文化を継続し、さらに充実させていただきたい。YouTubeも活用していくことでさらに広がっていく可能性がある。 郷土芸能を継承する地域の人々の励みになるよう交流の場を設定し、盛り上げてほしい。</td></tr> </table>	活動内容	子どもから大人まで参加できる大館市伝統文化親子教室事業「未来へつなごう 大館市の伝統文化」を開催し、伝統芸能の体験の場を作るとともに、それらを通じさまざまな形の交流を図る。また、教職員を対象とした伝統芸能の体験の場を設ける。	点検評価	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>文化庁より5年目となる当該事業を受託し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、8月3日に「大館市伝統文化親子教室～教職員のための伝統文化の体験会～」を開催した。今年度は、新たに将棋講座を加え、書道体験、茶道体験、華道体験を実施し、参加者は46人であった。</p> <p>小中学生による郷土芸能発表会は、ほくしか鹿鳴ホールを会場に11月23日に開催した。出演団体は8団体(小学校3校、中学校2校、3団体)、出演者124人であった。発表会の映像は、YouTubeを利用して配信することで、次世代へ残す記録資料にもなり、郷土芸能の保存・継承・発展につながることが見込まれる。</p>	課題等	少子高齢化により郷土芸能を継承する地域の人材の確保が困難な状況となっている。加えて、学校統合により地域の歴史や伝統文化を保存・継承・発展させていくことが困難になっている状況も生まれている。各小中学校において、地域の自然・文化に触れる体験や地域の人々との交流など、地域の特色・資源を生かした教育活動を進めることにより、郷土を愛し、地域で活躍する「未来大館市民」の育成を図りたい。	学識経験者等意見	伝統文化を継続し、さらに充実させていただきたい。YouTubeも活用していくことでさらに広がっていく可能性がある。 郷土芸能を継承する地域の人々の励みになるよう交流の場を設定し、盛り上げてほしい。
活動内容	子どもから大人まで参加できる大館市伝統文化親子教室事業「未来へつなごう 大館市の伝統文化」を開催し、伝統芸能の体験の場を作るとともに、それらを通じさまざまな形の交流を図る。また、教職員を対象とした伝統芸能の体験の場を設ける。								
点検評価	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>文化庁より5年目となる当該事業を受託し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、8月3日に「大館市伝統文化親子教室～教職員のための伝統文化の体験会～」を開催した。今年度は、新たに将棋講座を加え、書道体験、茶道体験、華道体験を実施し、参加者は46人であった。</p> <p>小中学生による郷土芸能発表会は、ほくしか鹿鳴ホールを会場に11月23日に開催した。出演団体は8団体(小学校3校、中学校2校、3団体)、出演者124人であった。発表会の映像は、YouTubeを利用して配信することで、次世代へ残す記録資料にもなり、郷土芸能の保存・継承・発展につながることが見込まれる。</p>								
課題等	少子高齢化により郷土芸能を継承する地域の人材の確保が困難な状況となっている。加えて、学校統合により地域の歴史や伝統文化を保存・継承・発展させていくことが困難になっている状況も生まれている。各小中学校において、地域の自然・文化に触れる体験や地域の人々との交流など、地域の特色・資源を生かした教育活動を進めることにより、郷土を愛し、地域で活躍する「未来大館市民」の育成を図りたい。								
学識経験者等意見	伝統文化を継続し、さらに充実させていただきたい。YouTubeも活用していくことでさらに広がっていく可能性がある。 郷土芸能を継承する地域の人々の励みになるよう交流の場を設定し、盛り上げてほしい。								

重点施策点検・評価表

3-6-3

基本目標									
3	ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援								
重点施策									
6	<p>伝統・芸術・文化の継承と振興を支援する</p> <p>(③ 新たな芸術文化体験の機会の提供</p> <table border="1"> <tr> <td>活動内容</td><td>ほくしか鹿鳴ホールの自主事業と、さらなる学びの機会の充実を図る。</td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <p>□ 目標をやや下回る (80~94%) <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>指定管理者の自主事業で、ウクレレワークショップ、松田鉄雄バイオリン教室などの「大人の学びなおしの場創出事業」を開催し、さらにリカレント教育との連携した事業を開催した。また、日本放送協会秋田放送局と大館市の主催により、「民謡をどうぞふるさとデリバリーin大館市」を開催し、地域文化の振興とこれまでの課題であった集客するイベントを開催した。</p> <p>新たな情報発信の方法として、Wi-Fiの環境整備をおこなったことでICTを活用した講演等の動画配信など、多彩な文化芸術情報の発信をさせていくことができた。</p> </p></p></td></tr> <tr> <td>課題等</td><td> <p>街のにぎわいにつながる集客力のあるイベントの継続開催、ネット環境の整備による文化芸術活動の展開と発展に努めていく。</p> <p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p> </td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td>いろいろな力を結集して指定管理者と力を合わせ、文化芸術活動の発展に努めていただきたい。また、街のにぎわいにつながる集客力のあるイベントを継続していただきたい。</td></tr> </table>	活動内容	ほくしか鹿鳴ホールの自主事業と、さらなる学びの機会の充実を図る。	点検評価	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <p>□ 目標をやや下回る (80~94%) <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>指定管理者の自主事業で、ウクレレワークショップ、松田鉄雄バイオリン教室などの「大人の学びなおしの場創出事業」を開催し、さらにリカレント教育との連携した事業を開催した。また、日本放送協会秋田放送局と大館市の主催により、「民謡をどうぞふるさとデリバリーin大館市」を開催し、地域文化の振興とこれまでの課題であった集客するイベントを開催した。</p> <p>新たな情報発信の方法として、Wi-Fiの環境整備をおこなったことでICTを活用した講演等の動画配信など、多彩な文化芸術情報の発信をさせていくことができた。</p> </p></p>	課題等	<p>街のにぎわいにつながる集客力のあるイベントの継続開催、ネット環境の整備による文化芸術活動の展開と発展に努めていく。</p> <p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>	学識経験者等意見	いろいろな力を結集して指定管理者と力を合わせ、文化芸術活動の発展に努めていただきたい。また、街のにぎわいにつながる集客力のあるイベントを継続していただきたい。
活動内容	ほくしか鹿鳴ホールの自主事業と、さらなる学びの機会の充実を図る。								
点検評価	<p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <p>□ 目標をやや下回る (80~94%) <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>指定管理者の自主事業で、ウクレレワークショップ、松田鉄雄バイオリン教室などの「大人の学びなおしの場創出事業」を開催し、さらにリカレント教育との連携した事業を開催した。また、日本放送協会秋田放送局と大館市の主催により、「民謡をどうぞふるさとデリバリーin大館市」を開催し、地域文化の振興とこれまでの課題であった集客するイベントを開催した。</p> <p>新たな情報発信の方法として、Wi-Fiの環境整備をおこなったことでICTを活用した講演等の動画配信など、多彩な文化芸術情報の発信をさせていくことができた。</p> </p></p>								
課題等	<p>街のにぎわいにつながる集客力のあるイベントの継続開催、ネット環境の整備による文化芸術活動の展開と発展に努めていく。</p> <p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>								
学識経験者等意見	いろいろな力を結集して指定管理者と力を合わせ、文化芸術活動の発展に努めていただきたい。また、街のにぎわいにつながる集客力のあるイベントを継続していただきたい。								

重点施策点検・評価表

4-1-1

基本目標		
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する	
重点施策		
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する	担当課(館)
① 企画(特別)展の開催とホームページを活用した効果的な情報発信		歴史文化課
点検評価	活動内容	大館の歴史や自然及び文化財等について関心を高めてもらうため、企画展を開催し、ホームページやフェイスブック、ツイッター等をツールとして、リアルタイムに情報発信していく。
		<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
		新型コロナウイルス感染の第7波が令和4年7月から9月にかけて発生し、人々の移動制限が続く中、郷土博物館や鳥潟会館などの施設情報・天然記念物・イベントなどをお知らせするホームページの更新や、ツイッター、フェイスブックなどを積極的に活用し、情報発信を行った。 イベントについては、6月25日～26日の「文化財庭園フォーラム」や、8月28日、令和5年1月28日、29日の「第9回全国風穴サミットin大館」が県内外からの参加を図るため、開催案内と参加についてホームページや新聞等で情報発信した。また、長走風穴館のYouTube動画やニホンザリガニの動画もリアルタイムで発信した。 郷土博物館の企画展は、郷土の画家の作品展を開催し、市内外から多くの方にご来館いただいた。今後もニーズに合わせて企画していきたい。
	課題等	新型コロナの感染者数が徐々に減少し、人々の移動が戻ってきており、各施設への見学の機会を増やすため情報や企画展について、ホームページ、ツイッター、フェイスブック等のSNSにより幅広くPRし、タイムリーな情報発信に努める。
学識経験者等意見	「文化財庭園フォーラム」、「第9回全国風穴サミットin大館」など全国規模の開催があり、関心を高めてもらういい機会であり大変よかったです。 風穴館やニホンザリガニの動画をYouTubeで配信したことは、事業の周知にもなるため、見ててくれる方たちにとって興味深いものになると思うので、更に進めてほしい。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 繼続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度	

重点施策点検・評価表

4-1-2

基本目標										
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する									
重点施策										
1	大館の歴史と文化を学ぶ機会を提供し、市民の誇りと自信を醸成する	担当課(館)								
<p>② 学術的講座等の開催</p> <table border="1"> <tr> <td>活動内容</td><td>北鹿地域の文化財や自然、歴史などについて、関係市町村と連携して学術的講座を開催する。また大館郷土博物館において、発明クラブやわくわくサイエンス、出前講座などを関係団体と連携して、ニーズに合わせた学びの機会を提供していく。</td></tr> <tr> <td>点検評価</td><td> <p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>出前講座は3回実施し、子ども科学教室「わくわくサイエンス」は、定員数を抑え感染症対策を施し、予定を上回る10回を実施した。 博物館講座等は、新型コロナウイルスの第7波の影響により、開催することができなかった。 一方で当市が他団体を後援して、「第9回全国風穴サミットin大館」を、8月28日(プレ企画)、令和5年1月28日、29日に市内で開催することができた。本サミットでは専門家の方々による講演や片山温風穴の現地見学会などを通じて、風穴の魅力について学習や情報交換を図り、参加者の交流を深めることができ、大館市の風穴を全国にPRすることができた。 特別展・イベント等は、「昭和・平成ロマン派 日本画展」や「おひなさま展」など、4回開催した。</p> </td></tr> <tr> <td>課題等</td><td> <p>北鹿地域の市町村が連携して取り組む博物館講座等を、日程を調整して準備し開催していきたい。その際は、以前好評だったオンラインでの視聴も検討していく。</p> <p>市民を対象にした文化財や歴史・自然などの各種講座について情報発信し、学びの機会を提供していきたい。</p> </td><td>取組の方向性</td></tr> <tr> <td>学識経験者等意見</td><td colspan="2"> <p>新型コロナウイルス感染症が5類へ変更になることで、人の動きが活発になってくる。関係市町村と連携し、北秋田市→大館市→鹿角市と人の流れができるようにPRをしてほしい。</p> <p>子ども科学教室「わくわくサイエンス」など、子どもを対象にした講座は素晴らしい。親子で学べる企画はとても良いと思う。</p> </td></tr> </table>	活動内容	北鹿地域の文化財や自然、歴史などについて、関係市町村と連携して学術的講座を開催する。また大館郷土博物館において、発明クラブやわくわくサイエンス、出前講座などを関係団体と連携して、ニーズに合わせた学びの機会を提供していく。	点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>出前講座は3回実施し、子ども科学教室「わくわくサイエンス」は、定員数を抑え感染症対策を施し、予定を上回る10回を実施した。 博物館講座等は、新型コロナウイルスの第7波の影響により、開催することができなかった。 一方で当市が他団体を後援して、「第9回全国風穴サミットin大館」を、8月28日(プレ企画)、令和5年1月28日、29日に市内で開催することができた。本サミットでは専門家の方々による講演や片山温風穴の現地見学会などを通じて、風穴の魅力について学習や情報交換を図り、参加者の交流を深めることができ、大館市の風穴を全国にPRすることができた。 特別展・イベント等は、「昭和・平成ロマン派 日本画展」や「おひなさま展」など、4回開催した。</p>	課題等	<p>北鹿地域の市町村が連携して取り組む博物館講座等を、日程を調整して準備し開催していきたい。その際は、以前好評だったオンラインでの視聴も検討していく。</p> <p>市民を対象にした文化財や歴史・自然などの各種講座について情報発信し、学びの機会を提供していきたい。</p>	取組の方向性	学識経験者等意見	<p>新型コロナウイルス感染症が5類へ変更になることで、人の動きが活発になってくる。関係市町村と連携し、北秋田市→大館市→鹿角市と人の流れができるようにPRをしてほしい。</p> <p>子ども科学教室「わくわくサイエンス」など、子どもを対象にした講座は素晴らしい。親子で学べる企画はとても良いと思う。</p>	
活動内容	北鹿地域の文化財や自然、歴史などについて、関係市町村と連携して学術的講座を開催する。また大館郷土博物館において、発明クラブやわくわくサイエンス、出前講座などを関係団体と連携して、ニーズに合わせた学びの機会を提供していく。									
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>出前講座は3回実施し、子ども科学教室「わくわくサイエンス」は、定員数を抑え感染症対策を施し、予定を上回る10回を実施した。 博物館講座等は、新型コロナウイルスの第7波の影響により、開催することができなかった。 一方で当市が他団体を後援して、「第9回全国風穴サミットin大館」を、8月28日(プレ企画)、令和5年1月28日、29日に市内で開催することができた。本サミットでは専門家の方々による講演や片山温風穴の現地見学会などを通じて、風穴の魅力について学習や情報交換を図り、参加者の交流を深めることができ、大館市の風穴を全国にPRすることができた。 特別展・イベント等は、「昭和・平成ロマン派 日本画展」や「おひなさま展」など、4回開催した。</p>									
課題等	<p>北鹿地域の市町村が連携して取り組む博物館講座等を、日程を調整して準備し開催していきたい。その際は、以前好評だったオンラインでの視聴も検討していく。</p> <p>市民を対象にした文化財や歴史・自然などの各種講座について情報発信し、学びの機会を提供していきたい。</p>	取組の方向性								
学識経験者等意見	<p>新型コロナウイルス感染症が5類へ変更になることで、人の動きが活発になってくる。関係市町村と連携し、北秋田市→大館市→鹿角市と人の流れができるようにPRをしてほしい。</p> <p>子ども科学教室「わくわくサイエンス」など、子どもを対象にした講座は素晴らしい。親子で学べる企画はとても良いと思う。</p>									

 歴史文化課 |

重点施策点検・評価表

4-2-1

基本目標		
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する	
重点施策		
2	郷土の伝統文化を継承・普及する活動を支援する	担当課(館)
(1) 大館市郷土芸能保存協会、大館市文化財保護協会と連携した事業の推進		歴史文化課
活動内容	大館市郷土芸能保存協会に加盟する団体の郷土芸能の記録保存や継承、公開の機会を支援する。また、市内に存在する文化財の公開や保護の活動をしている大館市文化財保護協会の事業を支援する。	
	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)	大館市郷土芸能保存協会加盟団体は、さくら祭りやきりたんぽまつり、アメックス市などのイベントで、獅子踊りなどの郷土芸能を市民に披露する機会を得た。 大館市文化財保護協会との共催による文化財展覧会は、10月8日から10日までの3日間、中央公民館で開催した。今回は第50回目で、「江戸の絵図と史料で見る城下町大館」と題して、絵図など100枚を超える史料や個人が所有する刀剣などを展示し、市民の関心を高めることができた。また、伝統文化親子教室での伝統芸能の体験発表も行うことができた。
点検評価	大館市郷土芸能保存協会は、高齢化や後継者不足などにより、活動を継続することが難しい状況が続いている。 地域の郷土芸能を継承するため、小中学校等での活動の支援を継続していく必要がある。また、郷土芸能の記録保存について検討する段階にあると思われる。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	大館市文化財保護協会との共催による文化財展覧会などは、いろいろな場所で展示をし、市民に関心を持ってほしい。 高齢化や後継者不足などにより、活動を継続することが難しい状況である郷土芸能については、状況の厳しさは理解できるが、どうにか支援をしていってほしい。郷土芸能の記録保存は難しいと思うが、丁寧に保存をし、後世に伝えたい。	
課題等		
学識経験者等意見		

重点施策点検・評価表

4-3-1

基本目標		
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する	
重点施策		
3	<p>文化財の保護と調査を進め、未来に伝える</p> <p>① ニホンザリガニの生息地再生と増殖</p>	
	<p>活動内容</p> <p>天然記念物「ザリガニ生息地」の再生を目指す増殖事業が今年度で6年目を迎える。ニホンザリガニの増殖技術が更に向上するよう、関係者との連携を図り情報交換をしていく。第1人工生息地における定着状況や生息環境について丁寧にモニタリングをしていく。また第2人工生息地を今年度から3か年で整備していく。</p>	
	<p>点検評価</p> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>天然記念物を保存する気運を醸成するため、大館郷土博物館と男鹿水族館での飼育展示を継続し、教育普及に努めた。</p> <p>令和元年度にニホンザリガニの第1人工生息地を創出後、モニタリング調査を継続しており、令和4年度も30匹前後の生息が確認された。また、柵の周囲に植え込んだ草木が繁茂して日陰を作るなど、生息環境として整ってきていると考えられる。</p> <p>令和4年度から6年度までの3か年で第2人工生息地の造成工事を計画し、本年度分の工事は11月末に完成した。</p>	
	<p>課題等</p> <p>第1人工生息地でニホンザリガニの生育を確認しているものの水槽飼育による増殖技術がまだ確立されていないため、専門家の助言や協力を得ながら引き続き研究していく。</p> <p>第1人工生息地は、植生の繁茂や水路の状況を適宜観察することにより、ザリガニが安定して生息できるよう環境を整えていく必要がある。</p> <p>また、第2人工生息地の整備については、令和5年度が2年目に入る。令和4年度に造成した箇所との接続がスムーズに行われるよう監理していく。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>
	学識経験者等意見	長期計画で大変な事業であるが、ニホンザリガニの安定生息地となる成功に向けて頑張ってほしい。ぜひとも形になるよう期待している。

重点施策点検・評価表

4-3-2

基本目標		
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する	
重点施策		
3	文化財の保護と調査を進め、未来に伝える	担当課(館)
	② 市内遺跡発掘調査及び記録・出土品整理	歴史文化課
活動内容	大館城跡である旧市役所庁舎敷地の発掘調査を行い、調査記録及び出土品について整理・記録・保存を行っていく。また市内の官民の開発事業や住宅建築等に係る発掘調査及び試掘・確認調査を相手方の理解を得て、連携して適時対応していく。	
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>新庁舎建設事業に伴う令和4年度の発掘調査は、5月から12月にかけて、主に旧庁舎建物と駐車場跡地で実施した。本発掘でかつての外堀跡や柱穴、井戸などが確認されたほか、陶磁器や木簡などの遺物も出土した。また、出土品の整理・記録・保存を行った。10月29日に大館城跡発掘調査現地説明会を開催し、こうした調査の成果を報告した。説明会には市民60人が参加し、今後の成果にも期待が寄せられた。官民の開発事業に伴う調査は、県営圃場整備事業や個人住宅建設に関わる5件を実施した。</p>	
課題等	<p>大館城跡の内、旧庁舎跡地の発掘作業は、令和5年度で終了する。</p> <p>発掘作業を進めるにあたり、必要に応じて関係部局と協議を重ねながら進めていく。また、発掘調査報告書刊行に向けて、調査記録や出土品の整理・記録・保存を確実・丁寧に実施していく。</p> <p>大館城は歴史的に興味深い箇所であり、発掘調査の成果について資料展示会の開催などにより、適宜情報発信し、市民の関心を高めていきたい。</p> <p>市内の開発事業等に伴う発掘調査についても、理解を得ながら進めていく。</p>	<p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 継続</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止検討</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度</p>
学識経験者等意見	旧庁舎跡地を発掘しているが、市民の中には柵の中で何をしているのかわからない人もいるようだ。柵に歩道から見えるように「発掘調査中」などのお知らせを表示し、市民への理解を深めてもらいたい。	

重点施策点検・評価表

4-3-3

基本目標	
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する
重点施策	
3	<p>文化財の保護と調査を進め、未来に伝える</p> <p>③ 鳥潟会館庭園の国指定を目指した取り組み</p>
	<p>活動内容</p> <p>文化庁の名勝調査事業として、4年をかけて国の名勝指定の申請に耐えうる報告書の刊行を目指している。今年度は最終年度で、これまでの調査結果、調査委員会の意見を反映させた報告書を作成する。</p>
	<p>点検評価</p> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>令和4年6月26日に名勝地調査委員会を鳥潟会館で開催し、令和3年度までに行なった庭園の毎木調査や、鳥潟家に関わる文献の調査を反映した報告書の最終版について、名勝指定を目指す上での内容確認と指示をいただいた。その後、委員の方々からの支持を反映し、3月末に報告書を完成させた。また、6月25日、26日には、「文化財庭園フォーラム」が鳥潟会館庭園とほくしか鹿鳴ホールにおいて開催された。</p> <p>25日は、鳥潟会館庭園において全国から集まつた一流の庭師たちによる剪定技術の見学会を行なった。</p> <p>26日は、ほくしか鹿鳴ホールにおいて鳥潟会館庭園の文化的価値や特徴についてシンポジウムを行い、同庭園の名勝指定に向けて市民の関心を高めることができた。</p>
	<p>課題等</p> <p>名勝地調査事業は令和4年度で終了した。 完成した鳥潟会館庭園名勝地調査報告書を基に、名勝指定を目指し、県と連携して文化庁に申請していく。 なお、文化庁の文化財部門が京都に移転することから、審議スケジュールを確認して手続きを進めていく。</p>
	<p>学識経験者等意見</p> <p>「文化財庭園フォーラム」での一流の庭師たちによる剪定技術の見学会や鳥潟会館庭園の文化的価値や特徴についてシンポジウムを開催し、市民の関心も高まっている。同庭園の名勝指定に向けて頑張ってほしい。</p>
	<p>担当課(館)</p> <p>歴史文化課</p> <p>取組の方向性</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 繼続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度</p>

重点施策点検・評価表

4-4-1

基本目標									
4	郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する								
重点施策									
4	<p>歴史的風致維持向上計画に基づき、風致を構成する有形無形の文化財の保全と活用に努める</p> <p>① 歴史的風致維持向上計画の事業に取り組む民間組織への支援</p>								
	<p>活動内容</p> <p>「文化遺産活用まちづくり実行委員会」の事業は5年目を迎える。各種事業が計画的に推進できるよう積極的に支援していく。 昨年度に続き、ヘリテージマネージャーの育成事業としてスキルアップ講座やフィールドワーク、そして大館神明社例祭余興奉納行事のPR動画DVD制作事業が予定されており、関係課とも連携して取り組んでいく。</p> <p>点検評価</p> <table> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を上回る</td> <td>(達成率100%超)</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり</td> <td>(95~100%)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る</td> <td>(80~94%)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る</td> <td>(80%未満)</td> </tr> </table> <p>大館市文化遺産活用まちづくり実行委員会が計画していた大館神明社例祭余興奉納PR動画及び大館囃子奉納の踊りDVDを作成し、後世への継承及び普及啓発を行い情報発信を行った。また、大館囃子の後継者を育成するための講習会を15回開催し、延べ117人が参加し、伝承することができた。 ヘリテージマネージャー育成事業については、東京から講師を招いてスキルアップ講習を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ中止した。 これらの事業は、実施団体と連携を図り、県文化財保護室や文化庁とも協議して進めることができた。</p> <p>課題等</p> <p>歴史まちづくり事業の中でソフト事業を推進し、伝統芸能の継承や歴史的建造物の保存活用などについて取り組んできたが、伝統芸能組織の後継者不足などにより、本委員会への新規加入がなかった。 文化庁の補助を受けて実施してきた地域文化財総合活用推進事業は令和4年度で5年間の実施期間を終了し、令和5年度は総括評価を行うこととなっているため、これまでの事業の成果や課題をまとめしていく。 今後も伝統芸能の継承と維持保存に向けて、関係団体と取り組んでいく必要がある。</p> <p>学識経験者等意見</p> <p>後継者を育成するのは大変なことである。いつか花が咲くよう、地道に頑張ってほしい。 大館囃子を踊ってみたいという子どももいるので、ぜひ、後継者の育成につなげていってほしい。</p>	<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)	<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)
<input type="checkbox"/> 目標を上回る	(達成率100%超)								
<input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり	(95~100%)								
<input type="checkbox"/> 目標をやや下回る	(80~94%)								
<input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る	(80%未満)								